

キリスト教学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
天地創造の音楽		飯 靖子 (いい せいこ)	
ねらい	天地はどのように創られたのでしょうか？この授業では旧約聖書のはじめの天地創造の物語を読みながら、神様がこの世をどのように創られたかを、映像や音楽と共に知ります。そして、そこからイメージを発展させ、わたしたちの天地創造物語をつくります。		
授業計画	【前期】 第1回 旧約聖書 創世記を読む 第2回 天地創造の物語 1 第3回 天地創造の物語 2 第4回 天地創造の物語 3 第5回 天地創造の物語 4 第6回 天地創造物語の映像を観る 1 第7回 天地創造物語の映像を観る 2 第8回 天地創造物語の映像を観る 3 第9回 「ハイドン」の天地創造を聴く 1 第10回 「ハイドン」の天地創造を聴く 2 第11回 「天地創造」の作品を知る 1 第12回 「天地創造」の作品を知る 2 第13回 「天地創造」野産品を知る 3 第14回 作品の発表 第15回 作品の発表		
進め方	音楽を聴いたり、映像を観ながら聖書の天地創造の物語のイメージを膨らませ、自分達の作品を作っていく。		
テキスト	『聖書』『讚美歌21』	参考文献	必要に応じて配布。
評価方法	レポート:40% 出席:30% 授業参加の状態:30%		

キリスト教学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
「イエス・キリストの生涯と音楽」		飯 靖子 (いい せいこ)	
ねらい	新約聖書を読みながら、イエス・キリストの生涯を学ぶ。そして、イエスの生涯に関わる多くの芸術に触れる。		
授業計画	【後期】 第1回 キリスト教を知る 1 第2回 キリスト教を知る 2 第3回 新約聖書を知る 1 第4回 新約聖書を知る 2 第5回 イエスの誕生 1 第6回 イエスの誕生 2 第7回 イエスの誕生 3 第8回 イエスの生涯 1 第9回 イエスの生涯 2 第10回 イエスの生涯 3 第11回 イエスの生涯 4 第12回 イエスの死 1 第13回 イエスの死 2 第14回 発表 第15回 発表		
進め方	新約聖書を読みながら、それぞれのシーンに関わる映像を観たり、音楽を聞いたり、讚美歌をうたってみる。キリスト教が聖書の時代からどのように伝えられたかにも触れる。		
テキスト	聖書	参考文献	必要に応じて配布。
評価方法	レポート:40% 出席:40% 提出物など平常点:20%		

哲学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
自然・人間・世界		橋本 典子（はしもと のりこ）	
ねらい	哲学はミレトスの自然哲学者タレースが万物の源（アルケー）を水としたことから始まる。ソクラテースは魂の世話、プラトーンは〈よく生きること〉を提示した。西洋の古代及び中世の自然観・人間観・世界観を中心に、まず、哲学の基礎を学び、人間の知恵を確認し、哲学的に考えることを学ぶ。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 序論、哲学の基礎的知識 第2回 ソクラテース以前の哲学、東の哲学と西の哲学 第3回 哲学の始まり、アルケーの追究、タレース 第4回 パルメニデースとエムベドクレース 第5回 人間について考える、ソクラテース 第6回 プラトーン、初期対話篇について 第7回 プラトーン、イデア論 第8回 プラトーン、国家篇 ポリスについて 第9回 アリストテレース、学問体系と形而上学 第10回 アリストテレース、倫理学とポリスの学（政治学） 第11回 実践哲学、混乱の時代の哲学 第12回 宗教と哲学、ユダヤ思想とキリスト教 第13回 教父哲学、ニュッサのグレゴリウスとアウグスティヌス 第14回 大学の始まり、アベラール 第15回 トマス『神学大全』、超越について		
進め方	講義形式で行う。		
テキスト	今道友信著『西洋哲学史』（講談社学術文庫）	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	出席及び普段の受講態度：35% 試験：55% レポート：10%		

哲学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
世界観の変遷		橋本 典子（はしもと のりこ）	
ねらい	近世、近代、現代の世界観の変遷を人間を中心に理解し、それぞれの時代の知的文化を形成し支えてきた基本的考えを適確に捉えることを目的とする。近世、近代を中心に講義する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 中世哲学からルネサンスへ、近世・近代の始まり 第2回 Humanismの考えと思想、ビコー人間の尊厳について 第3回 エラスムスとモアア、理想と現実 第4回 自我の発見、デカルト『方法序説』 第5回 デカルト、神の存在証明、心身二元論 第6回 心身二元論の克服、ホッブスの国家論 第7回 考える葦、パスカルの人間論 第8回 ライブニッツ、二つの真理と汎神論 第9回 経験の重要視、イギリス経験論、ロック、パークリ 第10回 カント、理論と実践の関係 第11回 超越の問題、カントの立場そして永遠平和の考え 第12回 ドイツロマン主義、芸術と観念論の問題 第13回 シェリング、同一性の哲学 第14回 ヘーゲル、弁証法、歴史学の始まり 第15回 ニーチェ、キルケゴール、現代哲学のはじまり		
進め方	講義形式で行う。		
テキスト	今道友信著『西洋哲学史』（講談社学術文庫）	参考文献	授業中に推薦する。
評価方法	出席及び受講態度：35% 試験：55% レポート：10%		

倫理学 I		前期 2 単位	1・2・3年
医療の問題を中心に応用倫理学について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
ねらい	現在、応用倫理学と呼ばれる領域でどのような問題が取り上げられ、そして、どのような考え方が提出されているのかを学んでもらいます。そして、こうした問題に関して、みなさんに実際にいろいろと考えてもらおうと思います。倫理学 I では、医療の問題を中心にしたものを取り上げる予定です。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODククシヨク 第2回 倫理について考えること 第3回 インフォームドククセクツとパターナリズム：その1 第4回 インフォームドククセクツとパターナリズム：その2 第5回 インフォームドククセクツとパターナリズム：その3 第6回 インフォームドククセクツとパターナリズム：その4 第7回 脳死と臓器移植：その1 第8回 脳死と臓器移植：その2 第9回 脳死と臓器移植：その3 第10回 脳死と臓器移植：その4 第11回 クローン技術と優性思想：その1 第12回 クローン技術と優性思想：その2 第13回 クローン技術と優性思想：その3 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	講義を中心に進める予定ですが、一方的なものではなく、できるだけ双方向的なものにしたいと考えています。講義時間の後半20分前後を、その日の講義内容について簡単なペーパーを皆さんに書いてもらう時間にあて、書いてもらった事を紹介したり、検討したり、回答したりする時間を設ける予定です。もちろん授業中の質問や意見も大歓迎です。		
テキスト	特に指定しません。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	徳永哲也『はじめて学ぶ生命・環境倫理』ナカニシヤ出版、2003年。 この他にも授業中にできるだけ文献を紹介します。
評価方法	学期末試験：40% 出席：20% リアクションペーパー：40%		

倫理学 II		後期 2 単位	1・2・3年
生命の問題を中心に応用倫理学の問題について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
ねらい	現在、応用倫理学と呼ばれる領域でどのような問題が取り上げられ、そして、どのような考え方が提出されているのかを学んでもらいます。そして、こうした問題に関して、みなさんに実際にいろいろと考えてもらおうと思います。倫理学 II では、生命の問題を中心にしたものを取り上げる予定です。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODククシヨク 第2回 倫理について考えること 第3回 安楽死と尊厳死：その1 第4回 安楽死と尊厳死：その2 第5回 安楽死と尊厳死：その3 第6回 安楽死と尊厳死：その4 第7回 安楽死と尊厳死：その5 第8回 ターミナル・ケア：その1 第9回 ターミナル・ケア：その2 第10回 人工妊娠中絶：その1 第11回 人工妊娠中絶：その2 第12回 人工妊娠中絶：その3 第13回 人工妊娠中絶：その4 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	講義を中心に進める予定ですが、一方的なものではなく、できるだけ双方向的なものにしたいと考えています。講義時間の後半20分前後を、その日の講義内容について簡単なペーパーを皆さんに書いてもらう時間にあて、書いてもらった事を紹介したり、検討したり、回答したりする時間を設ける予定です。もちろん授業中の質問や意見も大歓迎です。		
テキスト	特に指定しません。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	徳永哲也『はじめて学ぶ生命・環境倫理』ナカニシヤ出版、2003年。 この他にも授業中にできるだけ文献を紹介します。
評価方法	学期末試験：40% 出席：20% リアクションペーパー：40%		

日本文学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
近・現代の詩歌の鑑賞		津金 規雄 (つがね のりお)	
ねらい	近・現代の日本語の精華である、詩・短歌・俳句を味わいます。近代化とともに訪れた感受性の変化を、それぞれの作家たちがどのように言語化して行ったのかを跡づけたく考えています。		
授業計画	【前期】 第1回 講座案内 第2回 近・現代の詩(1) 第3回 同 (2) 第4回 同 (3) 第5回 同 (まとめ) 第6回 近・現代の短歌(1) 第7回 同 (2) 第8回 同 (3) 第9回 同 (まとめ) 第10回 近・現代の俳句(1) 第11回 同 (2) 第12回 同 (3) 第13回 同 (まとめ) 第14回 3つのジャンルの交流(1) 第15回 同 (2)		
進め方	明治以降の近・現代の詩歌一詩・短歌・俳句の名作を鑑賞しながら、その歴史の変遷をたどっていきます。授業内では精読、授業外では多読を心がけてください。 評価方法については、受講状況により、定期試験とするか、複数回の小テストとするかを決定します。		
テキスト	プリントを用意します。	参考文献	授業中に随時紹介していきます。
評価方法	試験あるいは小テスト:85% 出席:15%		

日本文学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
近・現代の詩歌の鑑賞		津金 規雄 (つがね のりお)	
ねらい	近・現代の日本語の精華である、詩・短歌・俳句を味わいます。近代化とともに訪れた感受性の変化を、それぞれの作家たちがどのように言語化して行ったのかを跡づけたく考えています。		
授業計画	【後期】 第1回 講座案内 第2回 近・現代の詩(1) 第3回 同 (2) 第4回 同 (3) 第5回 同 (まとめ) 第6回 近・現代の短歌(1) 第7回 同 (2) 第8回 同 (3) 第9回 同 (まとめ) 第10回 近・現代の俳句(1) 第11回 同 (2) 第12回 同 (3) 第13回 同 (まとめ) 第14回 3つのジャンルの交流(1) 第15回 同 (2)		
進め方	明治以降の近・現代の詩歌一詩・短歌・俳句の名作を鑑賞しながら、その歴史の変遷をたどって行きます。前期とは異なる作品を扱います。授業内では精読・授業外では多読を心がけて下さい。 評価方法については、受講状況により、定期試験とするか、複数回の小テストとするかを決定します。		
テキスト	プリントを用意します。	参考文献	授業中に随時紹介していきます。
評価方法	試験あるいは小テスト:85% 出席:15%		

英米文学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
US少数派（マイノリティ）文学に見る、有色女性たちの〈自分探し〉		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）	
ねらい	外国文学は自分を知るための〈鏡〉である。あたりまえだった自己や世界のイメージが異化され、外からの眼差しによって根底から揺るがされる。現代アメリカの少数派女性文学2点をじっくり読みながら、women of colorという鏡に映し出された女性たちの生き様が私たちに何を問いかけるか、考えたい。		
授業計画	【前期】 第1回 イン트로～歴史という表象の政治学～作品背景 第2回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第3回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第4回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第5回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第6回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第7回 『ジョイ・ラック・クラブ』まとめ～中間レポート説明 第8回 中間レポート締め切り～『サンアントニオの青い月』概説 第9回 『サンアントニオの青い月』精読 第10回 『サンアントニオの青い月』精読 第11回 『サンアントニオの青い月』精読 第12回 『サンアントニオの青い月』精読 第13回 『サンアントニオの青い月』精読 第14回 『サンアントニオの青い月』まとめ～期末レポート説明 第15回 期末レポート締め切り～まとめ		
進め方	講義とディスカッションと AV 資料		
テキスト	エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』角川文庫、S・シスネロス『サンアントニオの青い月』晶文社、他にプリントを準備する。	参考文献	随時紹介
評価方法	レポート2本:60% 出席・議論への参加度:30% メールレポート:10%		

英米文学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
US少数派（マイノリティ）文学に見る、有色女性たちの〈自分探し〉		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）	
ねらい	外国文学は自分を知るための〈鏡〉である。あたりまえだった自己や世界のイメージが、外からの眼差しによって異化され、根底から揺るがされる。現代アメリカの少数派女性文学2点をじっくり読みながら、women of colorという鏡に映し出された女性たちの生き様が私たちに何を問いかけるか、考えたい。		
授業計画	【後期】 第1回 イン트로～歴史という表象の政治学～作品背景 第2回 『青い目がほしい』精読 第3回 『青い目がほしい』精読 第4回 『青い目がほしい』精読 第5回 『青い目がほしい』精読 第6回 『青い目がほしい』精読 第7回 『青い目がほしい』まとめ～中間レポート説明 第8回 中間レポート締め切り～『カラーパープル』概説 第9回 『カラーパープル』精読 第10回 『カラーパープル』精読 第11回 『カラーパープル』精読 第12回 『カラーパープル』精読 第13回 『カラーパープル』精読 第14回 『カラーパープル』まとめ～期末レポート説明 第15回 期末レポート締め切り～まとめ		
進め方	講義とディスカッション、余裕があればAV 資料を少し用いるかもしれない。		
テキスト	T・モリスン『青い目がほしい』ハヤカワepi文庫、A・ウォーカー『カラー・パープル』集英社文庫、他にプリントを準備する。	参考文献	随時紹介
評価方法	レポート2本:60% 出席・議論への参加度:30% メールレポート:10%		

アメリカ史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
ファーストレディの歴史		石井 朋子 (いしい ともこ)	
ねらい	アメリカの大統領制度の中で私たち日本人に分かりにくいのがファーストレディの存在であるかと思う。この講座では歴代ファーストレディが私的、公的にどのような役割を果たしてきたか、そしてその役割が時代と共にどのように変わってきたかを見ていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに——ファーストレディとは何か？ 第2回 マーサ・ワシントン 第3回 アビゲイル・アダムズ 第4回 ドリー・マディソン (1) 第5回 ドリー・マディソン (2) 第6回 19世紀のファーストレディたち 第7回 革新時代とファーストレディたち 第8回 エレノア・ルーズベルト (1) 第9回 エレノア・ルーズベルト (2) 第10回 20世紀半ばのファーストレディたち 第11回 ベティ・フォード 第12回 ナンシー・レーガン+バーバラ・ブッシュ 第13回 ヒラリー・クリントン 第14回 ミシェル・オバマ+まとめ 第15回 定期試験		
進め方	基本的に講義中心となるが、理解を助けるため配布プリントを使用する。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	適宜紹介する
評価方法	出席:15% 平常点:15% 定期試験:70%		

アメリカ史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
アメリカ出産史		石井 朋子 (いしい ともこ)	
ねらい	2つある。(1)出産の歴史を学ぶことによって、現在の出産様式を相対化し、女性にとって望ましい出産とは何かを考えるヒントにする。(2)出産というテーマを切り口にしてアメリカ社会への理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 はじめに——出産史とは何か 第2回 植民地時代＝伝統的な出産の時代 第3回 産婆という女性 (1) (ビデオ) 第4回 産婆という女性 (2) 第5回 ヨーロッパにおける男性による助産の始まり 第6回 アメリカにおける男性による助産の始まり 第7回 ヴィクトリア朝時代と出産——女性の“慎み深さ”をめぐる 第8回 19世紀アメリカ女性の様々な出産体験 第9回 アメリカにおける医療の展開と産婆たち 第10回 医学の専門化と産婆論争 第11回 日本における助産の歴史と男性助産師問題 第12回 “文明”とアメリカの出産——男性医師の言説 第13回 分娩体位の歴史 第14回 陣痛と麻酔分娩——自宅出産から病院出産へ 第15回 定期試験		
進め方	基本的には講義中心となるが、理解を助けるため配布プリントやビデオを使用する。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席:15% 課題提出:15% 定期試験:70%		

日本史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
女性の生き方からたどる日本近代史		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
ねらい	恋愛・結婚・子育て・仕事など多くの選択肢がある現代女性の自由で多様な生き方は、強い制限に縛られて生きていた過去の女性達の願望や行動によって獲得したものでもある。国民国家の形成、世界情勢の変転、繰り返される戦争など近代以降激変していく時代状況について、女性をめぐる社会的な変遷過程を軸に考察し、日本近代史への理解を深め		
授業計画	【前期】 第1回 序論 第2回 明治国家と「家」制度 第3回 自由民権運動と女性 第4回 「良妻賢母」主義教育 第5回 農村と女工の労働環境 第6回 日清・日露戦争：出征・戦死・遺家族 第7回 婦人運動の展開 第8回 女性解放思想：母性保護論争を中心に 第9回 専業主婦とサラリーマン 第10回 植民地の生活 第11回 総力戦と女性①：「軍国の母」 第12回 総力戦と女性②：従軍慰安婦 第13回 総力戦と女性③：戦時の「健康」 第14回 敗戦と民主化 第15回 試験		
進め方	近代以降の日本の動向を、女性をめぐる状況の変化を中心に追っていく。様々な文献や資料、視聴覚教材を通して、近代日本史を生きた女性の歴史として再認識し、現代にまで通じる諸問題を検討する。欧米やアジアの女性史との比較なども行いたい。随時授業の感想や意見等を書いてもらい参加意欲や理解度をみる。後半にはレポートを提出してもら		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	脇田晴子他編『日本女性史』（吉川弘文館、1987年）歴史教育者協議会編『学びあう女と男の日本史』（青木書店、2001）他、講義時に随時紹介す
評価方法	平常点:30% レポート:30% 試験:40%		

日本史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
現代日本論		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
ねらい	1945年に敗戦をむかえ世界秩序の再編とともに大きく変動した戦後の日本社会の諸問題を検証する。生活者の視点から、国家と国民、日本とアジア、日米関係、グローバリゼーションにおけるこれからの日本のあり方など様々な問題を多面的に検討し、現代日本社会の今日的課題を考察する力を鍛えていきたい。		
授業計画	【後期】 第1回 戦後日本とGHQの民主化政策 第2回 東京裁判 第3回 日本国憲法の制定 第4回 占領政策の転換 第5回 朝鮮戦争 第6回 講和条約～日本の独立と国際関係 第7回 日米安保体制 第8回 高度経済成長と公害問題 第9回 ベトナム戦争 第10回 沖縄の日本復帰 第11回 戦後補償問題 第12回 靖国問題 第13回 まとめ① 第14回 まとめ② 第15回 試験		
進め方	戦後の日本社会について多面的に考察するため、毎回テーマを設定し問題の所在を探求する。文献や映像をはじめ様々な資料を駆使して問題を歴史的観点から検証すること、さらに主体的に現状の課題を見つけ考察し分析する力を養うことが目標である。随時感想や意見を書いてもらい参加意欲や理解度をみる。後半にレポート提出がある。		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	講義内容に即して随時紹介する。
評価方法	平常点:30% レポート:40% 試験:30%		

東洋史 I		前期 2 単位	1・2・3年
世界遺産からみた中国の歴史と文化 I		高浜 侑子（たかはま ゆうこ）	
ねらい	近年、世界遺産について関心が高まっており、中国では39の世界遺産が登録されている。その中から文化遺産を通して、中国の歴史と文化を考察したい。東洋史 I では「中国古代の歴史と文化」、「中国古代～中世の宗教と文化」をテーマに解説する。		
授業計画	【前期】 第1回 中国の歴史・文化と世界遺産 第2回 先史時代の人類の歴史「周口店の北京原人遺跡」 第3回 古代王朝の始まり「殷墟」 第4回 古代の学術と文化「曲阜の孔廟、孔府、孔林」 第5回 古代帝国の出現「秦の始皇帝陵と兵馬俑坑」 第6回 長城の起源と歴史（古代）「万里の長城」（1） 第7回 長城と対外政策（中世～近世）「万里の長城」（2） 第8回 仏教の中国伝来と仏教芸術「敦煌の莫高窟」 第9回 仏教の中国流行と仏教芸術「雲岡石窟」「竜門石窟」 第10回 中国各地の仏教文化「廬山」「五台山」 第11回 中国各地の仏教文化「大足石刻」「峨眉山と楽山大仏」 第12回 山岳信仰と宗教の聖地「泰山」 第13回 道教の発祥地と聖地「青城山と都江堰」「武当山」 第14回 名山と文化・芸術「黄山」「武夷山」 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、DVD、ビデオなども使用して理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、プリントを配付する。	参考文献	山口直樹『中国世界遺産の旅』（小学館）。その他、図書館カウンターにある2010年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	出席:30% 小レポート:10% 定期試験:60%		

東洋史 II		後期 2 単位	1・2・3年
世界遺産からみた中国の歴史と文化 II		高浜 侑子（たかはま ゆうこ）	
ねらい	近年、世界遺産について関心が高まっており、中国では39の世界遺産が登録されている。その中から文化遺産を通して、中国の歴史と文化を考察したい。東洋史 II では「中国近世～現代の歴史と文化」、「多民族国家中国の歴史と文化」をテーマに解説する。		
授業計画	【後期】 第1回 中国の歴史・文化と世界遺産 第2回 明・清王朝の都の歴史「故宮」（1） 第3回 明・清王朝の都の歴史「故宮」（2） 第4回 明・清王朝の祭天儀礼「天壇」 第5回 明・清王朝の陵墓制度「明・清朝の皇家陵」 第6回 清王朝の離宮と寺廟群「承徳の避暑山荘と外八廟」 第7回 清王朝の庭園と対外問題「頤和園」 第8回 近世の商人の活躍「古都平遥」「安徽省の西遞村、宏村」 第9回 江南文化の繁栄と名園「蘇州の古典庭園」 第10回 西洋文化と中国文化の融合「マカオ歴史地区」 第11回 奇妙な建築群「開平のチョウ楼と村落」「福建土楼群」 第12回 高句麗王国の遺跡群「高句麗前期の都城と古墳」 第13回 中国西南のナシ族の古都「古都麗江」 第14回 チベット仏教の聖地「ラサのポタラ宮歴史地区」 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、DVD、ビデオも使用して理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、プリントを配付する。	参考文献	山口直樹「中国世界遺産の旅」（小学館）。その他、図書館カウンターにある2010年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	出席:30% 小レポート:10% 定期試験:60%		

西洋史 I		前期 2 単位	1・2・3年
西洋史学概論 歴史のための闘争		西願 広望 (せいがん こうぼう)	
ねらい	様々な歴史家と彼らの研究を追うことで、歴史学的な思考方法を身につけ、自分の人生に応用する。つまり、歴史学が、君を幸せにする、君を自由にする、君を強くする、君を優しくする、君をカッコよくする、君を君らしくする、君を大きくする、君を深くする、君を濃くする、君を賢くする、そして君を笑わせる! ?ことをリアルに実感する。		
授業計画	【前期】 第1回 第1章 嘘つきの私だって真実が欲しい! -ヘロドトス- 第2回 -トウキティデス- 第3回 第2章 風が吹けば桶屋が儲かる? -モンテスキュー- 第4回 -デュルケーム- 第5回 -マルク・ブロック- 第6回 -リュシアン・フェーヴル- 第7回 -フェルナン・ブローデル- 第8回 -ロジェ・シャルチエ- 第9回 第3章 舌先三寸のチ・カ・ラ! -キケロー- 第10回 -タキトウス- 第11回 -ミシュレ- 第12回 第4章 運命の女神は誰に微笑む? -神の摂理- 第13回 -自由と文明の道- 第14回 -矛盾の哲学の誕生- 第15回 -マルクスの発展段階論、そして神は死んだ-		
進め方	講義が主体だが、学生にも参加してもらいたい新しいタイプの授業にしたい。 またしばしば視聴覚資料(特に映画)を用いる。 高校の「世界史」の授業とは異なり、本講義において重要なのは、暗記よりも、分析と理解である。		
テキスト	授業中に、コピーを配布する。	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
評価方法	4回の講義感想文:40% 4回のレポート:60%		

西洋史 II		後期 2 単位	1・2・3年
ナポレオン伝説		西願 広望 (せいがん こうぼう)	
ねらい	本講義はナポレオンの伝記を扱うのではない。そうではなくて、「ナポレオン伝説の歴史」を扱う。そして、過去を学ぶとは何なのか、記憶と歴史はどう違うのか、といった問題を考察して、歴史認識についての理解を深める。		
授業計画	【後期】 第1回 伝説・記憶とは何か 第2回 ナポレオンについて 第3回 ナポレオンについて 第4回 かきまわされたイメージ 1814-1821 第5回 かきまわされたイメージ 1814-1821 第6回 かきまわされたイメージ 1814-1821 第7回 ロマン主義の英雄の誕生 1821-1848 第8回 ロマン主義の英雄の誕生 1821-1848 第9回 ロマン主義の英雄の誕生 1821-1848 第10回 伝説は繰り返す 1848-1912 第11回 伝説は繰り返す 1848-1912 第12回 伝説は繰り返す 1848-1912 第13回 科学的歴史学の勃興 1912-1999 第14回 科学的歴史学の勃興 1912-1999 第15回 科学的歴史学の勃興 1912-1999		
進め方	講義形式。さらに、毎回、視聴覚資料(特に映画)を用いる。 西洋の時事問題や日常生活なども、時間が許すかぎり紹介したい。 頻繁に欠席すると、授業についていくのが大変になるので、注意すること。		
テキスト	特になし。	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
評価方法	講義感想文(1):20% 講義感想文(2):20% 講義感想文(3):20% 期末レポート:40%		

芸術Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
西洋美術の歴史をジャンル別にたどる		伊藤 巳令 (いとう みれい)	
ねらい	西洋の美術は、描かれるテーマやモチーフの違いから、宗教画、歴史画、神話画、肖像画、風俗画、静物画、風景画などに分けられます。これらをジャンルと呼び、それぞれ独自の過程をたどって展開しました。この授業では具体的な作品を通じてジャンルごとの歴史や意義、表現について考えます。芸術Ⅰでは宗教画、歴史画、神話画を中心に進めます		
授業計画	【前期】 第1回 宗教画 (1) 第2回 宗教画 (2) 第3回 宗教画 (3) 第4回 宗教画 (4) 第5回 神話画 (1) 第6回 神話画 (2) 第7回 神話画 (3) 第8回 神話画 (4) 第9回 歴史画 (1) 第10回 歴史画 (2) 第11回 寓意画 (1) 第12回 寓意画 (2) 第13回 寓意画 (3) 第14回 寓意画 (4) 第15回 調整日		
進め方	毎回プロジェクターで作品を投影しながら、プリントにそって授業を進めます。		
テキスト	なし	参考文献	三浦篤「まなざしのレッスン」①西洋伝統絵画、東京大学出版会、木村三郎「名画を読み解くアトリビュート」淡交社、「西洋美術大全集」小学館など
評価方法	出席:60% 期末レポート:40%		

芸術Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
西洋美術の歴史をジャンル別にたどる		伊藤 巳令 (いとう みれい)	
ねらい	西洋の美術は、描かれるテーマやモチーフの違いから、宗教画、歴史画、神話画、肖像画、風俗画、静物画、風景画などに分けられます。これらをジャンルと呼び、それぞれ独自の過程をたどって展開しました。この授業では具体的な作品を通じてジャンルごとの歴史や意義、表現について考えます。芸術Ⅱでは風俗画、静物画、風景画を中心に進めます		
授業計画	【後期】 第1回 肖像画 (1) 第2回 肖像画 (2) 第3回 肖像画 (3) 第4回 風俗画 (1) 第5回 風俗画 (2) 第6回 風俗画 (3) 第7回 風俗画 (4) 第8回 静物画 (1) 第9回 静物画 (2) 第10回 静物画 (3) 第11回 静物画 (4) 第12回 風景画 (1) 第13回 風景画 (2) 第14回 風景画 (3) 第15回 調整日		
進め方	毎回プロジェクターで作品を投影しながら、プリントにそって授業を進めます。		
テキスト	なし	参考文献	エリカ・ラングミュア「静物画」八坂書房、「西洋美術大全集」小学館など
評価方法	出席:60% 期末レポート:40%		

生活デザインⅠ		前期 2 単位	1・2・3年
ヨーロッパの服飾デザイン史		内村 理奈（うちむら りな）	
ねらい	私たちにあって服飾は最も身近なデザインですが、それがどのような歴史の上に成立しているか考えることは少ないのではないのでしょうか。本講義では、ヨーロッパの歴史上に現れた服飾デザインを、その背景にある人間の思いと生活の営みに目を配りながら概説します。過去の服飾デザインの色や形の面白さを伝えたいと思います。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 インTRODクシヨN：生活デザインとしての服飾 第2回 古代ギリシヤ・ローマ：ドレーパリーのヴァリエーション 第3回 中世①マントと毛皮 第4回 中世②：紋章と色彩のシンボル 第5回 中世③：性差の表現、立体裁断 第6回 ルネサンス①：異国への憧れ、服飾版画の誕生 第7回 ルネサンス②：肖像画にみる切口装飾、レース、宝石 第8回 17世紀①：小物のファッション 第9回 17世紀②：ヴェルサイユに花開く宮廷衣裳と室内着 第10回 18世紀①：画家の描いたロココ・ファッション 第11回 18世紀②：巨大な髪型、イギリス趣味と自然への憧憬 第12回 19世紀①：新古典主義、ダンディズム 第13回 19世紀②：矯正下着、スポーツウェアの誕生 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	毎回パワーポイントで多くの図像資料を紹介しながら講義を行います。紹介する図像資料はプリント（白黒）で配布します。		
テキスト	特になし。	参考文献	深井晃子監修『カラー版世界服飾史』美術出版社。 その他の参考文献は授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点：30% 試験：70%		

生活デザインⅡ		後期 2 単位	1・2・3年
日本の服飾デザインと現代ファッション		内村 理奈（うちむら りな）	
ねらい	ファッションのグローバル化が言われる今日ですが、現代ファッションへの日本の服飾文化の影響は少なくありません。講義では、まず日本の服飾デザインの特色を概観し、その上で、服飾デザインが内包する人間生活の根幹と関わる問題群を、現代ファッションをリードしてきたデザイナーたちがどのように考えてデザイン化してきたかを考察し、今後のファッションの方向性を展望します。		
授業計画	<b>【後期】</b> 第1回 インTRODクシヨN、現代ファッションの方向性と課題 第2回 平安時代：十二単、重ね色目 第3回 室町から安土・桃山時代：小袖、能装束 第4回 江戸時代①：浮世絵、歌舞伎 第5回 江戸時代②：町人文化と粋 第6回 日本と西洋の文化交流：和装から洋装へ 第7回 現代ファッションとジェンダーに関する映像資料鑑賞 第8回 コルセットからの解放とジャポニスム（ポワレ） 第9回 女性の自立とシャネル・スタイル（シャネル） 第10回 新しい男女観を求めて（ディオール、ゴルティエ） 第11回 アートとファッション（イヴ・サンローラン） 第12回 服飾史へのまなざし（ヴィヴィアン・ウエストウッド） 第13回 日本の再発見、衣生活の問い直し（三宅一生ほか） 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	毎回パワーポイントで多くの図像・写真資料を紹介しながら講義を行います。ファッションに関する貴重な映像資料も紹介します。紹介する図像資料はプリント（白黒）で配布します。		
テキスト	特になし。	参考文献	授業の中で適宜紹介します。
評価方法	平常点：30% 試験：70%		

対照言語学		後期 2 単位	1・2・3年
日本語と英語		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
ねらい	まず音声・文字・文法・発想法や語彙・意味などの観点からみた日本語と英語の違いについて実例を挙げながら具体的に観察し、その上で日本語と英語の言語的な特徴をよりよく、より深く理解することがこの授業の主な目的です。また、誤った「日本語特殊論」についても考えてみたいと思います。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 序論：世界の諸言語の中の日本語と英語 第3回 音声(母音)の日英語比較 第4回 音声(子音)の日英語比較 第5回 音節・アクセント・リズムの日英語比較 第6回 日本語と英語の文字体系 第7回 文法的類型からみた日本語と英語 第8回 名詞と動詞の日英語比較 第9回 代名詞の日英語比較 第10回 日本語の助詞と英語の冠詞, 日本語の敬語 第11回 日本語と英語の発想法 第12回 語彙・意味の日英語比較 第13回 日本語と英語の造語法 第14回 まとめ 第15回 定期試験		
進め方	授業に必要な資料はプリントにして教室で配布し、講義形式で授業を進めることになります。必要と思われることはしっかりとノートを取るようにして下さい。		
テキスト	特には使用しません。	参考文献	第1回目の授業時にまとめて紹介します。
評価方法	出席:40% 定期試験:60%		

社会言語学		前期 2 単位	1・2・3年
世界の様々な英語		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
ねらい	英語は現在、国際語または世界語といわれ、英米ばかりでなく、オーストラリア、南アフリカ、インドなど、世界の多くの国で使用されています。この授業では、そのような様々な国の英語の特徴をわかりやすく説明し、実際の音声も聞いてもらう予定です。世界中には多様な英語がある、ということを実感してほしいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 英語の略歴 第3回 国際語としての英語 第4回 イギリス英語とアメリカ英語：発音 第5回 イギリス英語とアメリカ英語：文法 第6回 イギリス英語とアメリカ英語：綴り字 第7回 イギリス英語とアメリカ英語：語彙 第8回 アイルランドの英語 第9回 オーストラリアの英語 第10回 南アフリカの英語 第11回 インドの英語 第12回 イギリス英語とアメリカ英語の様々な方言 第13回 国際語としての英語の将来 第14回 まとめ 第15回 定期試験		
進め方	授業に必要な資料はプリントとして教室で配布し、講義形式で授業を進めることになります。必要と思われることはしっかりとノートを取るようにして下さい。音声教材も活用します。		
テキスト	特には使用しません。	参考文献	第1回目の授業時にまとめて紹介します。
評価方法	出席:40% 定期試験:60%		

日本思想史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
近代日本の「日本」像		佐藤 美奈子（さとう みなこ）	
ねらい	「日本」とは何か？近代以降、「日本」に暮らす人々は、このように問い続けているように思います。答えは一つではありません。しかし、幕末から明治にかけてどう答えが出されるかを学ぶことで、「日本」が形作られていく過程を知ることができます。それは同時に、あなた自身がこの問いにどう答えるのか、考える機会も与えてくれるでしょう。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 ディスカッション：「日本」とは何か 第3回 幕末における世界の見え方 第4回 尊皇攘夷の思想 第5回 天皇制国家の「起源」 第6回 文明開化と啓蒙思想 第7回 自由民権運動と大日本帝国憲法の成立 第8回 特別企画：渋谷歴史散歩 第9回 教育勅語の思想 第10回 国体論との対立1 内村鑑三 第11回 国体論との対立2 北一輝 第12回 国体論との対立3 社会主義 第13回 国体論との対立4 無政府主義 第14回 日本主義（国粋主義）の思想 第15回 ディスカッション：再び、「日本」とは何か		
進め方	講義形式。ただし各人の意見や考えを知るため、発言を求めます。また、毎回、授業の最後にレスポンスカードを書いて提出してもらいます。他の思想を学ぶだけでなく、自らの思想を発信することも求められる授業です。「分かりません」という答えは認めないので、そのつもりで参加してください。授業の妨げとなるため、途中入室（遅刻）も認めません。		
テキスト	特に定めません。	参考文献	授業時に随時紹介します。
評価方法	出席：45% レスポンスカード：45% ボーナス：10%		

日本思想史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
近代日本の「アジア」像		佐藤 美奈子（さとう みなこ）	
ねらい	「アジア」と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか？具体的に思い浮かんだ人も浮かばない人も、この問いを本授業の出発点とします。自分の持つイメージや考えは、日本の現在や過去とどう結びついているのでしょうか？「アジアと日本」という古くて新しいテーマを題材に、自分や他の人の思想を分析し、様々な角度から考えてみたいと思います。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 ワークショップ：「アジア」とは何か 第3回 「アジア」への眼差し：進化論の影響 第4回 近代日本と「アジア」の関係：歴史的背景 第5回 「アジア」と西洋の狭間で：「脱亜論」 第6回 ビデオ鑑賞：植民地としての台湾 第7回 特別企画：青山霊園散歩 第8回 ディスカッション：進化論的世界観をめぐって 第9回 ディベート：進化論的世界観をめぐって 第10回 「興亜」の思想1：梅井藤吉 第11回 「興亜」の思想2：「清国ニ対スル宣戦ノ詔勅」 第12回 「興亜」の思想3：岡倉天心 第13回 「興亜」の思想4：大陸浪人 第14回 ディスカッション：「アジア」と日本のこれから 第15回 再び「アジア」への眼差し：竹内好		
進め方	講義形式。ただし各人の意見や考えを知るため、発言を求めます。また、毎回、授業の最後にレスポンスカードを書いて提出してもらいます。他の思想を学ぶだけでなく、自らの思想を発信することも求められる授業です。「分かりません」という答えは認めないので、そのつもりで参加してください。授業の妨げとなるため、途中入室（遅刻）も認めません。		
テキスト	特に定めません。	参考文献	授業時に随時紹介します。
評価方法	出席：45% レスポンスカード：45% ボーナス：10%		

書道 I		前期 2 単位	1・2・3年
生活の中の書 I		田丸 憲子 (たまる のりこ) 本庄 和子 (ほんじょう かずこ)	
ねらい	用具の簡便さからそまつに書きがちなペン字を、手書きの果たす役割や味わいを大切に、正しい書き方を学び、安定感のある美しい文字が書けるようにする。		
授業計画	【前期】 第1回 漢字の基礎、葉書の書き方 第2回 ひらがなの練習 第3回 ひらがなの練習 第4回 漢字の練習 楷書、行書 第5回 漢字の練習 楷書、行書 第6回 漢字の練習 楷書、行書 第7回 縦書文の練習 第8回 縦書文の練習 第9回 縦書文の練習 第10回 横書文の練習 第11回 地名の練習 第12回 地名の練習 第13回 作品を書く練習 第14回 漢字仮名交じり文の練習 第15回 漢字仮名交じり文の練習		
進め方	ひらがなから始め、漢字の楷書、行書、漢字仮名まじり文を書く練習をする。正しい筆順、正しいくずし方を学ぶ。硬筆（ペン）でも美しい作品が書けることを知り、作品を書いてみる。毎時間実習を中心に進め、毎回清書を提出する。		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	「ペン習字三体」 高田香雪著 日本習字普及協会、 「3級合格のポイント」 日本習字普及協会、 「筆順字体字典」 江守賢治著 三省堂
評価方法	提出物の平均点:80% 出席点:10% 授業時態度:10%		

書道 I		後期 2 単位	1・2・3年
生活の中の書 I		本庄 和子 (ほんじょう かずこ)	
ねらい	用具の簡便さからそまつに書きがちなペン字を、手書きの果たす役割や味わいを大切に、正しい書き方を学び、安定感のある美しい文字が書けるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 漢字の基礎、葉書の書き方 第2回 ひらがなの練習 第3回 ひらがなの練習 第4回 漢字の練習 楷書、行書 第5回 漢字の練習 楷書、行書 第6回 漢字の練習 楷書、行書 第7回 縦書文の練習 第8回 縦書文の練習 第9回 縦書文の練習 第10回 横書文の練習 第11回 地名の練習 第12回 地名の練習 第13回 作品を書く練習 第14回 漢字仮名交じり文の練習 第15回 漢字仮名交じり文の練習		
進め方	ひらがなから始め、漢字の楷書、行書、漢字仮名交じり文を書く練習をする。正しい筆順、正しいくずし方を学ぶ。硬筆（ペン）でも美しい作品が書けることを知り、作品を書いてみる。毎時間実習を中心に進め、毎回清書を提出する。		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	「ペン習字三体」 高田香雪著 日本習字普及協会、 「3級合格のポイント」 日本習字普及協会、 「筆順字体辞典」 江守賢治著 三省堂
評価方法	提出物の平均点:80% 出席点:10% 授業時態度:10%		

書道Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
生活の中の書Ⅱ		田丸 憲子（たまる のりこ） 本庄 和子（ほんじょう かずこ）	
ねらい	普段持つことの少ない筆で書くことにより、集中力をつけ、手書きの果たす役割や味わいを大切に、正しい書き方を学び、安定感のある美しい文字が書けるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 漢字の基礎練習 第2回 楷書の練習 孔子廟堂碑 第3回 楷書の練習 孔子廟堂碑 第4回 楷書の練習 九成宮醴泉銘 第5回 楷書の練習 九成宮醴泉銘 第6回 楷書の練習 雁塔聖教序 第7回 楷書の練習 雁塔聖教序 第8回 行書の練習 集字聖教序 第9回 行書の練習 集字聖教序 第10回 行書の練習 蘭亭序 第11回 行書の練習 蘭亭序 第12回 行書、草書の練習 風信状 第13回 行書、草書の練習 風信状 第14回 ひらがなの練習 第15回 ひらがなの練習		
進め方	基本的な楷書から、行書、草書へと進み更にはかなの基本までをそれぞれ古典によって学ぶ。毎時間実習を中心にすすめる、毎回清書を提出する。		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	「書道検定の手引きと問題集」 日本書写技能検定協会、「3級合格のポイント」 日本習字普及協会、「筆順字体字典」 江守賢治著 三省堂、
評価方法	提出物の平均点:80% 出席点:10% 授業時態度:10%		

創作俳句Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
俳句に親しむ		片山 由美子（かたやま ゆみこ）	
ねらい	俳句は多くの人々に愛好されている文芸です。それは、わずか十七音でさまざまなことを表現できる可能性を秘めているからです。その方法を学び、毎日の生活の中で感じたことを表現できるようにします。その中で自分自身を見つめ、創作の楽しさを知ることが目的です。季語を通して日本の文化や伝統に触れ、日本語の豊かさを味わってみましょう		
授業計画	【前期】 第1回 俳句とはどういう文芸か 歳時記について 第2回 俳句の基礎知識 第3回 季語解説と実作指導 第4回 作品鑑賞と実作への応用 第5回 俳句の技法 実作指導 第6回 俳句の発想 実作指導 第7回 季語の知識を深める 第8回 句会の方法 実作指導 第9回 句会を体験する 第10回 名句に学ぶ 実作指導 第11回 句会 第12回 名句に学ぶ 実作指導 第13回 句会 第14回 句会 第15回 まとめ		
進め方	句会を楽しめるようになることを目標とします。毎回提出の作品(5句まで)の添削によって俳句の技法を学び、ビデオを使って季語の知識を深めます。句会の回数など、進め方については人数や習熟状況によって変更になる場合があります。		
テキスト	特になし。授業のノートをきちんと取っておくこと。	参考文献	歳時記（角川学芸出版「合本俳句歳時記 第4版」がのぞましい）。
評価方法	出席:50% 提出作品の評価:40% 取り組みの意欲と態度:10%		

創作俳句Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
俳句に親しむ		片山 由美子（かたやま ゆみこ）	
ねらい	俳句は多くの人々に愛好されている文芸です。それは、わずか十七音でさまざまなことを表現できる可能性を秘めているからです。その方法を学び、毎日の生活の中で感じたことを表現できるようにします。その中で自分自身を見つめ、創作の楽しみを知ることが目的です。季語を通して日本のすぐれた文化や伝統に触れ、日本語の豊かさを味わいま		
授業計画	【後期】 第1回 俳句の概説 歳時記について 第2回 俳句の基礎知識 第3回 季語解説と実作指導 第4回 季節に親しむ 実作指導 第5回 俳句の発想と技法 実作指導 第6回 俳句の発想と技法 実作指導 第7回 名句に学ぶ 実作指導 第8回 句会の方法 第9回 句会を体験する 第10回 名句に学ぶ 実作指導 第11回 季語の知識を深める 実作指導 第12回 句会 第13回 技法を深める 第14回 句会 第15回 まとめ		
進め方	句会を楽しめるようになることを目標とします。歳時記や句会のビデオを見て、多角的に俳句を学びます。毎回提出の作品(5句まで)の添削を通じて実作を指導します。句会の回数は人数や習熟状況によって変わることがあります。「創作俳句Ⅰ」からの継続可。		
テキスト	指定せず。授業のノートをきちんと取ること。	参考文献	歳時記（角川学芸出版「合本俳句歳時記 第4版」がのぞましい）。
評価方法	出席:50% 提出作品の評価:40% 取り組みの意欲と態度:10%		

音楽Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
音楽に親しむⅠ（音楽Ⅱに準ずる。音楽Ⅱからの継続可。）		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
ねらい	「芸術としての音楽の理解」 発声の基礎を知り、曲の美しさや歌詞の理解、音楽に関するドキュメンタリーの鑑賞、音楽鑑賞、等を通して、聴き方、楽しみ方を知り、音楽への理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 授業の進め方、発声の基礎 第2回 発声の基礎、歌 第3回 発声の基礎、歌 第4回 音楽鑑賞 第5回 音楽鑑賞 第6回 音楽鑑賞 第7回 歌詞の発音 第8回 海外の歌 第9回 弦楽器 第10回 演奏家の人生 第11回 音楽鑑賞 第12回 音楽鑑賞 第13回 楽器の歴史 第14回 音楽鑑賞 第15回 レポート試験		
進め方	音楽ドキュメンタリー鑑賞、音楽鑑賞、等は、提案して鑑賞をします。 授業内容は、状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
テキスト	必要な場合は資料を配付します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

音楽Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
音楽に親しむⅡ (音楽Ⅰに準ずる。音楽Ⅰからの継続可。)		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
ねらい	「芸術としての音楽の理解」 発声の基礎を知り、曲の美しさや歌詞の理解、音楽に関するドキュメンタリーの鑑賞、音楽鑑賞、等を通して、聴き方、楽しみ方を知り、音楽への理解を深める。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の進め方、発声の基礎 第2回 発声の基礎、歌 第3回 発声の基礎、歌 第4回 音楽鑑賞 第5回 音楽鑑賞 第6回 歌詞の発音 第7回 海外の歌 第8回 音楽鑑賞 第9回 音楽鑑賞 第10回 日本の歌 第11回 音楽鑑賞 第12回 音楽鑑賞 第13回 クリスマスの音楽 第14回 音楽鑑賞 第15回 レポート試験		
進め方	音楽ドキュメンタリー鑑賞、音楽鑑賞、等は、提案して鑑賞します。 授業内容は、状況に応じて適宜調整する場合があります。		
テキスト	必要な場合は資料を配付します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

国語表現法Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
「書くこと」「伝えること」のトレーニング		津島 知明 (つしま ともあき)	
ねらい	私たちが毎日使っている日本語について、様々な角度から考えながら、各人が自分の「言葉」と向き合い「表現」を磨き上げてゆくための時間としたい。(国語表現法Ⅱに同じ)		
授業計画	【前期】 第1回 自己紹介文 第2回 テーマを選ぶ 第3回 推敲と再構成 第4回 タイトルと書き出し 第5回 他人の表現に学ぶ 第6回 四コマ作文 第7回 文章の縮約 第8回 添削とコメント 第9回 文章の縮約(2) 第10回 添削とコメント(2) 第11回 改まった手紙文 第12回 自己アピール、自己推薦文 第13回 敬語の使い方 第14回 誤りやすい漢字・熟語 第15回 まとめ		
進め方	毎回課題を提出してもらおう。 国語辞典(電子辞書可)を持参すること。		
テキスト	『日本語リテラシー』(新典社)	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	課題の提出:50% 出席:40% 特別課題:10%		

国語表現法Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
「書くこと」「伝えること」のトレーニング		津島 知明（つしま ともあき）	
ねらい	私たちが毎日使っている日本語について、様々な角度から考えながら、各人が自分の「言葉」と向き合い「表現」を磨き上げてゆくための時間としたい。（国語表現法Ⅰに同じ）		
授業計画	【後期】 第1回 自己紹介文 第2回 テーマを選ぶ 第3回 推敲と再構成 第4回 タイトルと書き出し 第5回 他人の表現に学ぶ 第6回 四コマ作文 第7回 文章の縮約 第8回 添削とコメント 第9回 文章の縮約（2） 第10回 添削とコメント（2） 第11回 改まった手紙文 第12回 自己アピール、自己推薦文 第13回 敬語の使い方 第14回 誤りやすい漢字・熟語 第15回 まとめ		
進め方	毎回課題を提出してもらう。 国語辞典（電子辞書可）を持参すること。		
テキスト	『日本語リテラシー』（新典社）	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	課題の提出:50% 出席:40% 特別課題:10%		

手話Ⅰ（入門）		前期 2 単位	1・2年
		大石 勝彦（おおいし かつひこ）	
ねらい	手話は、「日本語を手の動きに置き換えた記号」ではありません。 日本語とは全く異なる体系をもった言語です。英語などの外国語に近い言語とと考えていただくといいかもかもしれません。 手話は、文法的な働きをもつ顔の表情や視線などで発せられたメッセージを目（視覚）で受け取る「視覚言語」です。		
授業計画	【前期】 第1回 講義 第2回 名前・色・数字 第3回 自己紹介（家族） 第4回 職業/学生 第5回 まとめ/ゲーム 第6回 略歴 第7回 タイムテーブル 第8回 通勤/通学 第9回 まとめ/ゲーム 第10回 食習慣 第11回 スポーツ 第12回 旅行 第13回 病気/怪我 第14回 総復習 第15回 テスト		
進め方	1. 先生は手話だけで授業をすすめます。日本語の話し言葉による説明はしません。 2. 先生は学生に手話の文を話すことをあまり強制しません。 ☆大切なのは手話で話されることを「理解する」ことです。		
テキスト	テキストはありません。	参考文献	「はじめての手話」（木村晴美・市田康弘共著、日本文芸社、定価1,200円） 「ろう文化」（木村晴美・市田康弘著、現代思想編集部/青土社、定価1,900円）
評価方法	出席:30% レポート:20% 定期試験:50%		

手話Ⅱ（初級）		後期 2 単位	1・2年
		大石 勝彦（おおいし かつひこ）	
ねらい	手話は、「日本語を手の動きに置き換えた記号」ではありません。日本語とは全く異なる体系をもった言語です。英語などの外国語に近い言語とと考えていただくといいかもかもしれません。手話は、文法的な動きをもつ顔の表情や視線などで発せられたメッセージを目（視覚）で受け取る「視覚言語」です。		
授業計画	【後期】 第1回 前期の復習 第2回 学校 第3回 運動会 第4回 休日の過ごし 第5回 まとめ/ゲーム 第6回 学校の帰り 第7回 過去のペット 第8回 ビデオ 第9回 まとめ/ゲーム 第10回 趣味 第11回 お正月 第12回 栄養/ダイエット 第13回 デフゲスト 第14回 総復習 第15回 テスト		
進め方	1. 先生は手話だけで授業をすすめます。日本語の話し言葉による説明はしません。 2. 先生は学生に手話の文を話すことをあまり強制しません。 ☆大切なのは手話で話されることを「理解する」ことです。		
テキスト	テキストはありません。	参考文献	「はじめての手話」（木村晴美・市田康弘共著、日本文芸社、定価1,200円）「ろう文化」（木村晴美・市田康弘著、現代思想編集部/青土社、定価1,900円）
評価方法	出席:30% レポート:20% 定期試験:50%		

Japanese Culture I		前期 2 単位	1年
Studying and discussing in English various aspects of Japanese culture		ウィルソン (WILSON, J. S.)	
ねらい	This course will provide opportunities to study and discuss Japanese culture, and consider how it is viewed from a Western perspective. Students will also learn how to explain Japanese culture in English.		
授業計画	【前期】 第1回 Course Intro & Kabuki I (Quiz) 第2回 Koinobori \$ Boy's Day 第3回 Miso, Shoyu & Tohu 第4回 National Holidays 第5回 Take 第6回 Kimono 第7回 Japanese Religion I 第8回 Tanuki, Kappa, Tengu & Maneki Neko 第9回 Kabuki II 第10回 Kekkon & Omiai 第11回 Washi & Chiyogami 第12回 Japanese Sports 第13回 Japanese Games 第14回 Review 第15回 TEST		
進め方	All classes will be conducted IN ENGLISH. The teacher will use English to teach this class, and students are expected to read, write, and discuss in English. Readings will be handed out one week in advance, and students must prepare for the class by reading the material and answering worksheet questions.		
テキスト	Introduction to Japanese Culture edited by Daniel Sosnoski	参考文献	The teacher will provide supplemental materials each week.
評価方法	preparation, discussion, and attendance:70% semester-end test:30%		

Japanese Culture II		後期 2 単位	1年
Studying and discussing in English various aspects of Japanese culture		ウィルソン (WILSON, J. S.)	
ねらい	This course will provide opportunities to study and discuss Japanese culture, and consider how it is viewed from a Western perspective. Students will also learn how to explain Japanese culture in English.		
授業計画	【後期】 第1回 Course Intro and Mata Tabi 第2回 Enka 第3回 Soba & Udon 第4回 Geta 第5回 Japanese Writing 第6回 Japanese Names 第7回 Shichi-Go-San 第8回 Ocha & Chanoyu 第9回 Japanese Religion II 第10回 Kabuki III 第11回 Hagoita 第12回 Hanafuda & Hyakunin Isshu 第13回 Review 第14回 Modern Culture / Otaku 第15回 TEST		
進め方	All classes will be conducted IN ENGLISH. The teacher will use English to teach this class, and students are expected to read, write, and discuss in English. Readings will be handed out one week in advance, and students must prepare for the class by reading the material and answering worksheet questions.		
テキスト	Introduction to Japanese Culture edited by Daniel Sosnoski	参考文献	The teacher will provide supplemental materials each week.
評価方法	preparation, discussion, and attendance :70% semester-end test :30%		

社会思想史 I		前期 2 単位	1・2・3年
近代天皇制と現代日本		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
ねらい	天皇制は、日本社会を奥深いところで規定しています。日本国憲法下の象徴天皇制であってもなおそうであると言えます。というより、私たちの社会や心のありようが天皇制を必要としていると言ったほうがよいでしょう。それはどのような社会や心のありようなのか。天皇制を通して、日本の社会と精神状況について考えます。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 オリエンテーション (第1回と同内容) 第3回 近代天皇制の成立と教育勅語(1) 第4回 近代天皇制の成立と教育勅語(2) 第5回 宗教装置としての天皇制 第6回 靖国神社問題(1) 第7回 靖国神社問題(2) 第8回 天皇制・日本精神・キリスト教(1) 第9回 天皇制・日本精神・キリスト教(2) 第10回 天皇制とジェンダー(1) 第11回 天皇制とジェンダー(2) 第12回 天皇制とハンセン病差別(1) 第13回 天皇制とハンセン病差別(2) 第14回 天皇制と沖縄 第15回 総括		
進め方	歴史を参照しつつ、つねに現代の私たち自身の問題を考えます。教育、植民地主義、戦争、ジェンダー、差別、といった事柄に即しながら、私たちの「内なる天皇制」を発見していきます。		
テキスト	教室でプリントを配布します	参考文献	教室で指示します。
評価方法	期末レポート:50% 平常点:50%		

社会思想史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
近代沖縄の歴史と思想——植民地化と抵抗		輪島 達郎（わじま たつろう）	
ねらい	琉球王国が日本に編入された琉球処分(1872～9年)以降の沖縄の歴史・文化・思想を学びながら、日本が沖縄に行ってきた「植民地化」および「軍事要塞化」と、それにたいする沖縄の「抵抗」について考えます。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 オリエンテーション（第1回と同内容） 第3回 沖縄に何を学ぶか 第4回 琉球処分と沖縄の植民地化 第5回 沖縄差別と自由民権運動 第6回 沖縄の音楽と演劇(1) 第7回 日本化・皇民化と方言論争 第8回 沖縄戦と住民 第9回 沖縄の音楽と演劇(2) 第10回 米軍統治と復帰運動 第11回 歴史教科書問題 第12回 自立への課題(1) 基地と経済 第13回 沖縄の音楽と演劇(3) 第14回 自立への課題(2) 文化とアイデンティティー 第15回 総括		
進め方	近代以降の沖縄の歴史に沿って進めますが、多文化主義や少数民族論など、つねに現代社会の課題を念頭に置きます。また、「沖縄の植民地化と抵抗」という課題に、政治・経済だけでなく、言語、生活習慣、芸能など文化的な面からもアプローチしますので、沖縄芸能の鑑賞や沖縄語の学習も随所に織り交ぜていきます。		
テキスト	教室でプリントを配布します。	参考文献	新崎盛暉『現代日本と沖縄』（山川出版社、2001年） 沖縄歴史教育研究会『改訂版 高等学校 琉球・沖縄
評価方法	定期試験:50% レポート:25% 小テスト:25%		

法学Ⅰ（日本国憲法）		前期 2 単位	1・2・3年
法学の基礎と憲法の基本を学ぶ		信澤 久美子（のぶさわ くみこ）	
ねらい	基本的な法学と憲法の知識を教えます。「現代社会と法律」では法律の現代的な問題を中心に応用的な問題を扱うのに対して、本講義では、資格取得に必要な「日本国憲法」として、基礎的な知識をしっかりと教えることを目標とします。公務員試験・法学部への編入等をめざす人は本講義をとって下さい。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 法学と憲法について 第2回 法学を学ぶにあたって 第3回 法とは何か 社会と規範 第4回 法とは何か 日本法と外国法 第5回 法の発展 法の発展と社会の発展 第6回 法の発展 近代社会・現代社会の法 第7回 法と裁判 裁判制度 第8回 裁判の基準 制定法と判例法 第9回 法の解釈 概念法学と自由法学 第10回 近代国家と憲法 明治憲法 日本国憲法 第11回 権力分立 違憲立法審査権 第12回 基本的人権 法の下での平等など 第13回 基本的人権 表現の自由・情報プライバシー・アクセス権 第14回 基本的人権 思想・良心・信教の自由など 第15回 テスト		
進め方	基本的に講義形式です。教科書に沿って進みますので、必ず教科書を持ってきて下さい。原則的に教科書の章ごとに進みます。講義では、教科書に書いていないことも補って教えますので、情報量がとても多くなります。テスト前の一夜漬けはききませんので、毎回、ノートをしっかりとるように心がけて下さい。		
テキスト	末川博編『法学入門』有斐閣双書	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	出席及び授業参加:7% テスト:93%		

法学Ⅰ（日本国憲法）		後期 2 単位	1・2・3年
憲法と法学の基礎を学ぶ		山岸 秀（やまぎし しげる）	
ねらい	(1) 現在までに学んできた知識を生かしつつ、平和主義・民主主義・基本的人権の尊重という憲法の基本原則についての知識を、憲法・政治の歴史を踏まえて学習して確実なものとし、現代社会に生きる人間としての人権感覚を習得する。 (2) 民法・刑法・手続法などの基本法、司法制度・手続の基本意識を習得し、社会事象を法の目から見る力を養う。		
授業計画	【後期】 第1回 法・法律とは 第2回 憲法の基礎(1) 日本国憲法の特長・明治憲法との違い 第3回 憲法の基礎(2) 国際化社会における憲法・条約の重要性 第4回 憲法の基礎(3) 平和主義以外の基本原則 第5回 憲法の基礎(4) 人権の歴史・人権の体系 第6回 憲法の基礎(5) 人権制約の原理 第7回 天皇制について 第8回 犯罪と法 刑法・刑事手続法について 第9回 教育と法(1) 教育法と教育法学 第10回 教育と法(2) 具体的問題と法(非行・不登校・体罰) 第11回 民法の基礎(1) 財産関係と民法 第12回 民法の基礎(2) 身分・相続と民法 第13回 平和と法(1) 憲法9条の意義 第14回 平和と法(2) 9条の歴史・不戦条約・国連 第15回 まとめ		
進め方	例年受講者の数が多いので講義中心に進めざるをえない。質問など受け付ける十分な時間をとることもむずかしいので、適宜、小レポートを書いてもらったりしながら受講生の主体的参加の工夫をしてゆきたい。		
テキスト	特に指定はしない。適当な文献、資料を授業中に推薦。授業はプリントをなるべく配布してそれに添うように進める。	参考文献	六法・教育六法、他に随時紹介
評価方法	テスト:60% 小レポート:20% 出席:20%		

法学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
法学の基礎と民法の基本を学ぶ		信澤 久美子（のぶさわ くみこ）	
ねらい	法学Ⅱでは、主に民法の基本を学びます。「法学Ⅰ」や「現代社会と法律」もあわせて履修するとよりわかりやすくなると思いますが、法学Ⅱだけとっても大丈夫です。法学Ⅰで扱う憲法とは違って、民法はより生活に密着した法律ですから、知っておくととてもためになります。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨN 法とは何か 第2回 法学基礎の基礎 第3回 犯罪と刑罰 刑事責任と民事責任 第4回 犯罪と刑罰 罪刑法定主義とは？ 第5回 家族 結婚・離婚の昔と現在 第6回 家族 親子関係・相続 第7回 契約法 契約の成立 契約当事者・契約内容・意思表示 第8回 契約法 契約の効果 詐欺・強迫 債務不履行 第9回 契約法 消費者法の基礎 附合契約 第10回 財産法 物権と債権 財産権の制約 第11回 損害賠償法 不法行為法 第12回 損害賠償法 使用者責任・土地工作物責任・保険 第13回 環境法 公害 第14回 環境法 地球環境問題 第15回 テスト		
進め方	教科書に沿って進みます。テキストは法学Ⅰと共通です。法学Ⅱは、法学Ⅰに続いてテキスト『法学入門』の第9講から始まります。法学Ⅰをとっておいたほうがわかりやすいかもしれませんが、法学Ⅱだけとってもわからないということはありません。教科書は毎回必ず持ってきて下さい。毎回、ノートをしっかりとして下さい。		
テキスト	末川博編『法学入門』有斐閣双書	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	出席・授業参加:7% テスト:93%		

政治学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
民主主義政治への視点		松本 高明（まつもと たかあき）	
ねらい	現代政治学に必須である「民主主義政治」の考え方と国内政治について扱う。昨年誕生した民主党政権は「国民・政治家主導」を標榜している。この変革期にあつて、有権者は確固たる民主主義への理解が必要である。本講座では政治の主役たる有権者が持つべき「政治に対する視点」を、知識と実践両面から紹介していきたいと考えている。		
授業計画	【前期】 第1回 原論（1） 「政治とは？」 身近な視点から 第2回 原論（2） 集団とリーダーシップ 第3回 原論（3） 権力と支配、そして支持 第4回 原論（4） 社会、そして政治意識 第5回 原論（5） 政治参加とは？ 第6回 民主主義（1） 政治共同体とナショナリズム 第7回 民主主義（2） 民主主義とその成長 第8回 民主主義（3） 権力と民主主義 第9回 民主主義（4） 現代の権力構造と問題点 第10回 現代政治（1） 議会政治の基本 第11回 現代政治（2） 政治制度の基礎知識 第12回 現代政治（3） 政治参加と選挙制度 第13回 現代政治（4） そのダイナミクス 第14回 現代政治（5） メディアと政治 第15回 現代政治（6） 地方政治の可能性		
進め方	講義自体は大きく3段に分けて進める。各回の内容は上記を参考にして貰いたいが、時事問題にも解説を加えるので教室にて若干の調整を行う予定。実施方法は、各回質問票に時事トピックを書いてもらう。また授業内容に関連する事象に解説を加え、理解に資する。基礎知識体得の為、選挙レポート等の小レポートを数回提出してもらう。なお、歴史年表・地図帳を必		
テキスト	阿部齋、久保文明、山岡龍一編著『政治学入門』放送大学教育振興会、2000年3月	参考文献	高島通敏著『政治学への道案内』三一書房、1988年 山口二郎、杉田敦編著『現代日本の政治』放送大
評価方法	出席状況:40% レポート:60%		

政治学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
国際政治と21世紀の課題		松本 高明（まつもと たかあき）	
ねらい	本講座では、現代国際政治における諸問題を理解する視点として、「国際社会の構造はどのように説明されてきたのか」、そして「現代においてどのように変質してきたのか」という2点を理解していただくことを主目的とする。特に後半では中国とその周辺国を取り上げることで参加者の理解を深めたい。		
授業計画	【後期】 第1回 原論（1） 国際社会とは？ 第2回 原論（2） 現代に至る世界地図、そして東アジア 第3回 原論（3） 西欧国際社会から広がった「国際」政治 第4回 原論（4） 国民国家体系入門 第5回 原論（5） 国家に対する二つのアプローチ 第6回 事例：中国（1） 国家建設の困難 第7回 事例：中国（2） 国民統合へ 第8回 事例：中国（3） 統一市場の創造 第9回 事例：中国（4） 格差と流動 第10回 事例：中国（5） 周辺国との関係 第11回 現代政治（1） 超国家・国家間・地域 第12回 現代政治（2） ナショナリティとエスニシティ 第13回 現代政治（3） 世界を覆う各種格差 第14回 現代政治（4） 国境を越える諸課題～経済・移民・環境 第15回 現代政治（5） 21世紀国際政治への視点		
進め方	毎回講義の初めに、出席者に質問票を記入してもらい、それに解説を加えることで、時事問題に関心を持ってもらうようにする。また、理論も扱うので、理解度を問うレポートも課す予定である。		
テキスト	山影進・小和田恒著『国際関係論』放送大学教育振興会（2002/04）	参考文献	岡部達味著『国際政治の分析枠組』（東大出版会）。このほか、授業中に紹介。
評価方法	出席:40% レポート:60%		

経済学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
経済学入門Ⅰ		秋富 創（あきとみ はじめ）	
ねらい	経済学（ミクロ・マクロ）の基礎的な理論や概念について学習する。後期の「経済学Ⅱ」と合わせて履修することが望ましいが、経済学の基礎について学習したい場合は、「経済学Ⅰ」の履修だけでも十分である。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 経済学とはどのような学問か 第2回 市場（1）～分業と協業① 第3回 市場（2）～分業と協業② 第4回 市場（3）～需要と供給① 第5回 市場（4）～需要と供給② 第6回 金融（1）～貨幣・金利・物価① 第7回 金融（2）～貨幣・金利・物価② 第8回 金融（3）～政府・企業・家計 第9回 企業～経営と投資 第10回 家計～労働と消費 第11回 政府（1）～市場の失敗と所得再分配 第12回 政府（2）～経済政策と景気調節 第13回 国際経済（1）～グローバル化と自由貿易 第14回 国際経済（2）～国内総生産と貿易収支 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、時事問題を扱った資料などを適宜配布する。出席は数回取るが、成績評価の7割は期末試験で決定する。初歩的な内容から中級程度の内容までを扱うため、単位取得のためには積極的な学習態度が要求される。		
テキスト	教科書は特に指定しない（購買義務はない）。	参考文献	伊藤元重『はじめての経済学（上・下）』（日経文庫）など。その他の文献については授業中に紹介する。
評価方法	出席：30% 試験：70%		

経済学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
経済学入門Ⅱ		秋富 創（あきとみ はじめ）	
ねらい	現代までのミクロ・マクロ経済学の歴史的系譜について、それぞれの時代状況や史実に即して系統的に学習する。前期「経済学Ⅰ」が理論的・抽象的な内容を扱っていたのに対し、本講義は歴史的な観点を重視し、実践的・具体的な内容を扱っており、内容的には「経済学Ⅰ」よりも難易度が高い。前期「経済学Ⅰ」と合わせて履修することが望ましい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 経済学の系譜とは 第2回 古典派① 第3回 古典派② 第4回 古典派③ 第5回 モラル・エコノミー 第6回 歴史学派 第7回 マルクス学派① 第8回 マルクス学派② 第9回 新古典派① 第10回 新古典派② 第11回 制度学派 第12回 ケインズ学派① 第13回 ケインズ学派② 第14回 反ケインズ学派 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、内容に即した復習プリントを随時配布する。中級程度の問題を扱っているため、単位修得のためには積極的な学習態度が要求される。		
テキスト	教科書は特に指定しない（購買義務はない）。	参考文献	小田中直樹『ライブ・経済学の歴史』（勁草書房）その他の文献については、授業中に紹介する。
評価方法	出席：30% 試験：70%		

経済学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
金融の基礎を学ぶ		阿川 裕里 (あがわ ひろさと)	
ねらい	この授業では、金融市場のしくみ、銀行の役割、金利や株価、為替相場の決まり方など、金融の基礎を学びます。また学生にも身近な消費者金融問題については、外部の講師を招いて理解を深める予定です。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 金融市場のしくみ 第3回 金融市場のしくみ 第4回 金融市場のしくみ 第5回 金融市場のしくみ 第6回 銀行の役割 第7回 銀行の役割 第8回 証券市場のしくみ 第9回 証券市場のしくみ 第10回 証券市場のしくみ 第11回 証券市場のしくみ 第12回 外国為替市場のしくみ 第13回 外国為替市場のしくみ 第14回 外国為替市場のしくみ 第15回 まとめ		
進め方	授業計画は学生の関心、理解度に応じて柔軟に対応します。 出欠は毎回確認し、成績に反映します。 期末レポートのテーマは指示します。		
テキスト	授業初日に指定します。	参考文献	授業初日に紹介します。
評価方法	期末レポート:60% 受講態度:20% 出席:20%		

経済学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
雇用社会を学ぶ		阿川 裕里 (あがわ ひろさと)	
ねらい	企業に就職すると、職場ではさまざまな雇用問題に直面します。たとえば男女間の処遇格差、正社員の長時間労働、非正社員の不安定な雇用条件、子育て支援の不足など。授業では、これらの問題を主に経済学の視点から検証し、雇用社会を生き抜く知恵を学習します。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 ガイダンス 第3回 レポーターによる報告と討論 第4回 レポーターによる報告と討論 第5回 レポーターによる報告と討論 第6回 レポーターによる報告と討論 第7回 レポーターによる報告と討論 第8回 レポーターによる報告と討論 第9回 レポーターによる報告と討論 第10回 レポーターによる報告と討論 第11回 レポーターによる報告と討論 第12回 レポーターによる報告と討論 第13回 レポーターによる報告と討論 第14回 レポーターによる報告と討論 第15回 まとめ		
進め方	授業は学生の報告を中心に進めます。出欠は毎回確認し、成績に反映します。 単位取得を希望する学生は期末レポートを提出してください。テーマは指示します。		
テキスト	授業初日に指定します。	参考文献	授業初日に紹介します。
評価方法	期末レポート:60% 報告:20% 出席:20%		

経営学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
企業の特徴と経営理論の流れ		須原 佐智子（すはら さちこ）	
ねらい	経営学を初めて学ぶ学生のために、「経営とは何か」を紹介した後、経営学の流れを史的にとらえ、経営理論の変遷を学ぶ。次の学習段階（経営学Ⅱも含む）への道標となることを目的としている。また前期の早い時期に、2010年の私たちの置かれている状況を経営学の観点から、テキストとは別に2回、特講としてお話ししましょう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の進め方。テキストについて。P.P.作成。 第2回 「経営学とは」その位置づけと隣接諸科学について。 第3回 企業の特徴（特）”世界の今”（グローバル恐慌） 第4回 企業分類（特）”2010年”どんな時代に（デフレにみる） 第5回 株式会社の特徴と仕組み 第6回 経営理論の流れ—①経営学の発生（独・米にみる） 第7回 ②テイラーと科学的管理法 第8回 ③ヘンリー・フォードとフォードイズム 第9回 ④ファヨールと管理過程論 第10回 ⑤メイヨーと人間関係論 第11回 ⑥行動科学と統合理論（Ⅰ） 第12回 ⑦行動科学と統合理論（Ⅱ） 第13回 ⑧バーナード革命とサイモン理論 第14回 ⑨組織間関係論へ 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、予習（次回テキスト部分）と復習（小テストに関する確認とまとめ）が必須なので、受講者は主体的自覚を持って授業に参加して欲しい。		
テキスト	井原久光著『テキスト経営学【増補版】』一基礎から最新の理論まで—（ミネルヴァ書房）	参考文献	図書館カウンターにある2010年度指定参考目録を参照。 授業の際、必要に応じて新しい参考文献は紹介す
評価方法	定期試験：70% 出席：20% 授業中の小テスト：10%		

経営学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
経営管理の本質と基礎的展開		須原 佐智子（すはら さちこ）	
ねらい	後期では、前期の理論学習をふまえて組織と個別管理の理論を学ぶと共に、女性の働き方についても考えてみましょう。経営学は、個人、組織、社会のあり方を見る目を養うと共に、“本当にやりたいこと探し”の、リベラルアーツとして己の生き方に通じ、とても面白く難しい学問です。共に学びましょう。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業の進め方。P. P作成。前期試験の結果について。 第2回 組織とは何か—①組織の特徴、伝統的組織論。 第3回 ②新古典的組織論。近代組織論。 第4回 基本的な組織形態 第5回 現実の組織形態—①職能部門組織と事業部制組織 第6回 ②プロジェクト組織とマトリックス組織 第7回 個別の管理論と経営論—①経営戦略論 第8回 ②人事管理とリーダーシップ論 第9回 ③マーケティング論 第10回 ④生産管理論 第11回 ⑤財務管理論 第12回 日本の経営論—その特徴、長所短所、成功と変質 第13回 現代社会と企業—①企業の国際化と統合 第14回 ②成熟社会と企業 第15回 試験		
進め方	前期と同じ。		
テキスト	井原久光著『テキスト経営学【増補版】』一基礎から最新の理論まで—（ミネルヴァ書房）	参考文献	経営学史学会編『日本の経営学を築いた人びと』（文眞堂） 授業の際、必要に応じて新しい参考文献は紹介す
評価方法	定期試験：70% 出席：20% 授業中の小テスト：10%		

社会学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
現代社会と現代人の行動について学ぶ		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
ねらい	社会学は、人間の形づくる集団や社会生活、そして社会を研究し、社会的存在としての人間の行動を研究対象とする。あるいは、現代社会に生きている人間の行動を集団のレベルを中心に考察する。この講義では、ミクロな個人レベルからマクロな社会レベルまで、いくつかのテーマの考察を通して、社会学的なものの見方・思考法を追求してみた		
授業計画	【前期】 第1回 序論 社会学の性格と基礎概念 第2回 個人と社会（1） 社会的ジレンマ 第3回 個人と社会（2） 社会化と社会的性格 第4回 家族と親族（1） 第5回 家族と親族（2） 第6回 結婚と離婚（1） 第7回 結婚と離婚（2） 第8回 不平等な社会（1） 社会階級 第9回 不平等な社会（2） 社会階層と社会移動 第10回 不平等な社会（3） 学歴社会と格差社会 第11回 噂・流言・都市伝説（1） 噂・流言・デマ 第12回 噂・流言・都市伝説（2） 噂の発生・伝播・影響 第13回 噂・流言・都市伝説（3） 都市伝説 第14回 噂・流言・都市伝説（4） 噂・流言対策 第15回 試験		
進め方	講義形式で行う。		
テキスト	特に使用しない。	参考文献	A・ギデンズ著『社会学』（而立書房） W・グード著『社会学の基本的な考え方』（而立書房） 山本努・辻正二・稲月正著『現代の社会学的解読』（学
評価方法	出席:15% 定期試験:85%		

社会学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
家族のありかたと社会変動		永田 夏来 (ながた なつき)	
ねらい	本講義では、社会学的な視点による現代日本の考察を、主に家族を題材としておこなう。社会の変化や変動と個人的な生活との関係を考えるための基本的な概念を理解し、個人の間での相互作用や人間関係を見直す視点を身につけることを目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンスー社会学の射程 第2回 準拠集団とはなにか 第3回 社会変動に運動した家族のあり方 第4回 近代社会と前近代社会 第5回 男らしさ・女らしさと現代の日本 第6回 社会に変革が起きるとき 第7回 役割移行理論と夫婦関係 第8回 結婚・離婚と多様な家族 第9回 未婚化社会と親子関係 第10回 「逸脱」とドメスティックバイオレンス 第11回 社会が求める「親らしさ」 第12回 高齢者がいる家族が抱える問題 第13回 障がいを持つ人と家族 第14回 さまざまな家族のかたち 第15回 まとめーこれからの社会と家族		
進め方	配布プリントとスライドで講義内容を詳説する。授業中に短いレポートを書いてもらうこともある。		
テキスト	土屋葉編著『これからの家族関係学』角川学芸出版2,000円。	参考文献	
評価方法	平常点:20% 試験:80%		

心理学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
心理学とはどのような学問か		武田 美亜 (たけだ みあ)	
ねらい	心理学と言ってもさまざまな研究分野がある。これも心理学なの？と思う分野もあるかもしれない。本科目では、特に心の基本的なしくみを扱う領域に関するテーマを中心に紹介する。この授業をきっかけに自分の興味関心を見つけて自分なりに深めてほしい。		
授業計画	<b>【前期】</b> 第1回 ガイダンス：占いの違い、科学としての心理学 第2回 心理学の研究法：人の心をどう知る（測る）か 第3回 感覚と知覚（外界情報の選別、さまざまな錯視） 第4回 認知のしくみ1：コンピュータとの類似点と相違点 第5回 認知のしくみ2：人はどのように物事を判断するか 第6回 記憶のしくみ 第7回 学習のしくみ1：学習するとは 第8回 学習のしくみ2：自ら学習するとはどういうことか 第9回 欲求と動機づけ：人は何に動かされるのか 第10回 パーソナリティ1：パーソナリティ理論 第11回 パーソナリティ2：健康なパーソナリティとは 第12回 対人行動：援助行動、攻撃行動 第13回 社会的影響：説得、同調行動、服従 第14回 集団の心理：社会的な抜き、集団思考 第15回 全体のまとめ：心とは何か、人間とはいかなるものか		
進め方	基本的に講義形式で行うが、簡単な調査や実験を取り入れる。自分の体験と結びつけたり、自分と向き合ったりすることが有効である。強制ではないが実際の研究への協力を求めることもある。これは心理学の知見をより深く理解する大変よい機会となるので、ぜひ積極的に参加してほしい。		
テキスト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。	参考文献	北尾 倫彦ほか（1997）『グラフィック心理学』サイエンス社 このほか授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席：20% レポート：20% 試験：60%		

心理学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
対人関係とコミュニケーションの心理学		武田 美亜 (たけだ みあ)	
ねらい	人間とそれに近い動物だけが持つとされる「自己」というものと、社会的動物と言われるわれわれ人間にとって欠かせない他者との関係および他者とのコミュニケーションについて見ていく。自己や他者、それらをとりまく状況が相互にどのような影響を及ぼしあっているかについての理解を目指す。		
授業計画	<b>【後期】</b> 第1回 ガイダンス 第2回 自己の理論1：「私」とは何か 第3回 自己の理論2：自己への注目・自己評価 第4回 自己と対人関係の発達 第5回 親密化過程 第6回 親密な関係：友情と恋愛の違い、恋愛のタイプ 第7回 社会的交換1：社会的交換という考え方 第8回 社会的交換2：相互依存関係、社会的ジレンマ 第9回 対人葛藤：葛藤の様相、葛藤への対処 第10回 コミュニケーションとは 第11回 ことばによるコミュニケーション 第12回 非言語コミュニケーション 第13回 メディアを介したコミュニケーション 第14回 ソーシャルスキルという考え方 第15回 全体のまとめ：どのように他者と接していくか		
進め方	基本的に講義形式で行うが、簡単な調査や実験を取り入れる。自分の体験と結びつけたり、自分と向き合ったりすることが有効である。強制ではないが実際の研究への協力を求めることもある。これは心理学の知見をより深く理解する大変よい機会となるので、ぜひ積極的に参加してほしい。		
テキスト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。	参考文献	北尾 倫彦ほか（1997）『グラフィック心理学』サイエンス社 このほか授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席：20% レポート：20% 試験：60%		

心理学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
社会と個人		山田 歩 (やまだ あゆみ)	
ねらい	人間は社会的存在である。われわれの心や行動は、他者との関係の中で形成される。この講義では、心理学一般のトピックにもふれながら、自己や他者、また、社会的な事柄に関する判断などに焦点をあてた社会心理学的研究を紹介し、人々が社会の中でどのようにふるまっているのか、また社会とどのように向き合っているのかを考えていく。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 社会的影響 第3回 要請と承諾 第4回 態度と態度変化 第5回 社会的判断の仕組み 第6回 社会的判断のゆがみ 第7回 対人認知の仕組み 第8回 対人認知のゆがみ 第9回 自分に関する判断1 第10回 自分に関する判断2 第11回 選択と好みの心理1 第12回 選択と好みの心理2 第13回 選択と好みの心理3 第14回 全体のまとめ 第15回 定期試験		
進め方	・講義が中心となるが、視覚教材や実習を取り入れながら進める予定である。・授業の一環として、実験やアンケートなどの作業に参加してもらう予定である。		
テキスト	特になし。プリントを配ります。	参考文献	池上知子・遠藤由美 (2008) 『グラフィック社会心理学』サイエンス社 チャルディーニ (1991) 『影響力の武器』誠信書房
評価方法	試験:40% レポート:40% 授業中の課題:20%		

心理学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
集団と個人の関わり		山田 歩 (やまだ あゆみ)	
ねらい	人間は社会的存在である。われわれの心や行動は、他者や集団との関係の中で形成されていく。この講義では、心理学一般のトピックにもふれながら、対人関係や集団と個人の関わりに焦点をあてた社会心理学的研究を紹介し、人々が社会の中でどのようにふるまっているのか、また社会とどのように向き合っているのかを考えていく。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 うわさと流言1 第3回 うわさと流言2 第4回 差別と偏見 第5回 ステレオタイプ 第6回 援助と攻撃 第7回 対人魅力 第8回 集団とは 第9回 同調と逸脱 第10回 命令と服従 第11回 集団の意思決定 第12回 競争と協力 第13回 社会的ジレンマ 第14回 全体のまとめ 第15回 試験		
進め方	・講義が中心となるが、視覚教材や実習を取り入れながら進める予定である。・授業の一環として、実験やアンケートなどの作業に参加してもらう予定である。		
テキスト	特になし	参考文献	池上知子・遠藤由美 (2008) 『グラフィック社会心理学』サイエンス社 など。他に適宜紹介します。
評価方法	試験:40% レポート:40% 授業中の課題:20%		

心理学Ⅴ		前期 2 単位	1・2・3年
心の働きと行動のメカニズム：イヌに心はあるか？		木村 直人（きむら なおと）	
ねらい	この講義では「ヒト」という生きものの行動について取り上げます。私たちヒトには心がある。ではイヌには？サルには？ミツパチには？メダカには？こうしたことを考えていくことによって、ヒトが「なぜ今しているように振る舞うのか」をヒト以外の動物と比較し、ヒトの行動の特徴をひいてはヒトへの認識を深めることが目的です。		
授業計画	【前期】 第1回 心的機能の連続性 第2回 犬に心はあるか？ 第3回 サルとヒトとを分かちつもの、ヒトだけが持つ特徴とは 第4回 ヒトの言語とイヌの吠え声を比較すると 第5回 サルに言語を教えようとした研究 第6回 サルは意味が理解できているのか 第7回 本能的行動の仕組みを探る 第8回 ティンバーゲンの4つの疑問 第9回 生得的解発機構：生得的で不可逆的な記憶 第10回 刷り込み：習得的ではあるが不可逆的な記憶 第11回 初期経験と愛情 第12回 私たちの個性は遺伝か環境か 第13回 野生児：学習の経験がなかったら 第14回 条件づけ：学習の最も基本的なメカニズムのひとつ 第15回 学習：習得的かつ可逆的な記憶		
進め方	講義形式ですが、ほぼ毎回興味深いビデオクリップを用意します。講義サイトを利用して受講生と担当者とのインタラクティブで能動的な学習の場を提供しますので、ぜひ活用してください。また詳しいシラバス、講義内容と計画を下記URLでお知らせしていますので、受講希望の方は必ず目を通して下さ		
テキスト	テキストは利用しませんが、次のURLで講義資料を配付します。 <a href="http://spot4u.net/">http://spot4u.net/</a>	参考文献	講義サイトに掲載します。
評価方法	期末試験：80% 復習課題3回：20%		

心理学Ⅵ		後期 2 単位	1・2・3年
認識のメカニズム：見ている世界は現実か？		木村 直人（きむら なおと）	
ねらい	この世界を今見えているように見せているのは「心」の働きです。そうした「心」をあなた方一人一人が持っていること、自分の中ではそれほど複雑な働きが絶え間なく行われていることを知ってもらいたいと思います。また見たものほどどのようにして記憶になるのでしょうか。そうした知覚と記憶の仕組みを取り上げていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス：見るとは解釈すること 第2回 外界と見えとのギャップ 第3回 なぜ眼を開けるとものが見えるのか 第4回 感覚により選択される世界 第5回 視覚受容器の構造と機能 第6回 視覚現象：形が見える 第7回 視覚現象：大きさを判断する 第8回 視覚現象：顔が見える 第9回 記憶障害が教えること 第10回 短期記憶における情報の符号化、貯蔵 第11回 短期記憶における情報の検索 第12回 長期記憶における情報の符号化、貯蔵 第13回 長期記憶における情報の検索 第14回 長期記憶の構造 第15回 記憶を向上させる方法		
進め方	講義形式ですが、ほぼ毎回興味深いビデオクリップを用意します。講義サイトを利用して受講生と担当者とのインタラクティブで能動的な学習の場を提供しますので、ぜひ活用してください。また詳しいシラバス、講義内容と計画を下記URLでお知らせしていますので、受講希望の方は必ず目を通して下さ		
テキスト	テキストは利用しませんが、次のURLで講義資料を配付します。 <a href="http://spot4u.net/">http://spot4u.net/</a>	参考文献	講義サイトに掲載します。
評価方法	期末試験：80% 復習課題3回：20%		

心理学Ⅶ		前期 2 単位	1・2・3年
臨床心理学・・・心理療法とこころの理解		田中 志帆（たなか しほ）	
ねらい	臨床心理学はカウンセリングや心理療法についての学問です。しかし、心理療法の技法、理論は百花繚乱であるのが現状です。この講義では、いくつかの主な学派と技法について紹介し、人間の心身の失調の意味について、解説を行います。ともに人間のこころについて考えましょう。実習形式で進め、事例の紹介も行います。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス：臨床心理学とその他の心理学の違い 第2回 精神医療の歴史・・・日本と海外について 第3回 主な精神疾患1・・・神経症、人格障害 第4回 主な精神疾患2・・・うつ病、統合失調症、認知症 第5回 心理療法、カウンセリングの発祥と発展 第6回 精神分析①フロイトの理論・・・無意識の発見と心的装置 第7回 精神分析②フロイトの理論・・・防衛機制、夢の分析 第8回 行動療法①・・・学習実験と行動療法 第9回 行動療法②・・・各種技法 第10回 来談者中心療法・・・カウンセリングの基本原則 第11回 臨床描画法（実習）・・・無意識を拾いあげる 第12回 フロイト理論のその後1・・・対象関係学派 第13回 フロイト理論のその後2・・・自我心理学派 第14回 児童期の心理療法・・・事例から考える 第15回 思春期青年期の心理療法・・・事例から考える		
進め方	以上のトピックについて、各1～2回の講義を行います。実習形式で行うことがありますので、静粛かつ積極的な参加を希望します。		
テキスト	下山晴彦編 「新版 よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房	参考文献	
評価方法	出席:40% 期末テストかレポート:60%		

心理学Ⅷ		後期 2 単位	1・2・3年
一般心理学・・・対人関係領域について		田中 志帆（たなか しほ）	
ねらい	心理学は様々な種類があります。なかでも、発達や性格、人間の相互作用や社会と個人の心理学の、古典から現代までの知見について解説します。人のこころを研究する学問である心理学の課題や面白さを共に考えましょう。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス：心理学とは何か 第2回 人間の基本感情と情動について（学習・認知心理学） 第3回 やる気と行動はどう働くか？（学習・認知心理学） 第4回 コンフリクト、ストレスについて（生理心理学） 第5回 パーソナリティー理論について（人格心理学） 第6回 パーソナリティー理論について（人格心理学） 第7回 知能指数って何？（人格心理学・教育心理学） 第8回 発達の意味・・・ゆりかごから墓場まで（発達心理学） 第9回 発達の様相・・・乳幼児期から児童期まで（発達心理学） 第10回 発達の様相・・・青年期から老年期まで（発達心理学） 第11回 ライフサイクル、発達段階の理論（発達心理学） 第12回 集団の中の個人・・・集団への同調（社会心理学） 第13回 集団の中の個人・・・パニックとデマ（社会心理学） 第14回 対人魅力と態度変容（社会心理学） 第15回 まとめ		
進め方	以上のトピックについて、各1～2回の講義を行います。講義内容の理解を深められるように、受講生が参加し、回答する形式の実習を何回か行う予定。結果は講義の中でフィードバックします。視聴覚教材も用いる予定です。今年も、前期の心理学Ⅶで臨床心理学について講義します。		
テキスト		参考文献	新 自分さがしの心理学—自己理解ワークブック 1700円
評価方法	出席:40% レポートか期末テスト:60%		

教育学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
今日の教育問題の検討		伊東 毅 (いとう たけし)	
ねらい	現代の教育問題として、「いじめ」「不登校」「援助交際」「学級崩壊」等がしばしば指摘される。本講義ではこうした教育問題を考察の中心に据えつつ、教育を問い直す作業をおこないたい。こうした現象を生起させた日本の教育システムを再考するために、明治以降の教育の歴史を振り返るという作業をも同時におこないたい。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 いじめと教育システム 第3回 いじめと子育て 第4回 不登校と学校適応過剰 第5回 不登校と競争 第6回 相対評価・絶対評価、それぞれのメリットとデメリット 第7回 援助交際・オタクと女子校・男子校 第8回 援助交際と生活指導 第9回 学校と階級 第10回 学校と階級—再生産論から学ぶ— 第11回 日本の近代学校—明治— 第12回 日本の近代学校—大正— 第13回 日本の近代学校—昭和— 第14回 日本の近代学校—平成— 第15回 まとめ		
進め方	講義が中心となるが、ビデオ等で理解を深める。		
テキスト	特に定めず、配布資料を使用する。	参考文献	教育科学研究会編『なくならない「いじめ」を考える』国土社、2008年。
評価方法	平常点:50% 試験:50%		

教育学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
教育問題の克服法の考察		伊東 毅 (いとう たけし)	
ねらい	「教育学Ⅰ」では子ども・若者をめぐる諸問題の現状の分析に力点を置いた講義を行うが、この「教育学Ⅱ」ではこれらをどう克服していったらよいかということに力点を置いて講義を行いたい。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 生徒指導上の諸問題の変遷—校内暴力から学級崩壊まで— 第3回 少年犯罪の実態—メディアでの報道を相対化する— 第4回 プロ教師の会の実践を見る 第5回 プロ教師の会の実践を考える 第6回 教育法規—教師・学校のできること・できないこと— 第7回 やおい—学校教育で敬遠されてきた性の問題を考える— 第8回 読み物資料を使った道徳の授業を考える 第9回 道徳教育における直接経験と間接経験 第10回 生活綴方教育の歴史 第11回 生活綴方教育の現在 第12回 ヒドゥンカリキュラム 第13回 発達障害とケア 第14回 教育を学ぶための文献紹介 第15回 まとめ		
進め方	講義が中心となるが、ビデオ等で理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、配布資料を使用する。	参考文献	第14回「教育を学ぶための文献紹介」の際に解説を加えながら紹介する。
評価方法	平常点:50% 試験:50%		

教育学Ⅲ		後期 2 単位	1・2・3年
E・H・エリクソンのライフサイクル論に学ぶ		山本 敏子（やまもと としこ）	
ねらい	生物としてのヒトの子どもが人間らしく成長するのに不可欠な経験とはどのようなものか。今日の子どもと大人とのあいだにより豊かな関係性を築いていくために、乳児期から老年期にいたる人間の生命過程について歴史・文化・社会とのかかわりあいのなかで深い洞察を行ったE・H・エリクソンのライフサイクル論に学びます。		
授業計画	【後期】 第1回 序：「教育学Ⅲ」への招待 第2回 子ども・若者の生活世界の現在 第3回 E・H・エリクソンの生涯とライフサイクル論 第4回 幼児期と社会①－スー族の世界と子どものしつけ 第5回 幼児期と社会②－ユーロク族の世界と子どものしつけ 第6回 「私」（I）という感覚と三種の現実（リアリティ） 第7回 人間の八つの発達段階①－乳児期を中心に 第8回 人間の八つの発達段階②－学童期を中心に 第9回 人間の八つの発達段階③－青年期を中心に 第10回 人間の八つの発達段階④－成人期を中心に 第11回 人間の八つの発達段階⑤－老年期を中心に 第12回 世代から世代へ個人のライフサイクルを超えて 第13回 現代日本における子どもの成育をめぐる諸問題 第14回 現代日本における若者の自立をめぐる諸問題 第15回 まとめ：人間の基本的経験とは何か		
進め方	受講者の皆さんが、それぞれに内発的な問題関心というものを持ち、それについて他者との対話を通して自ら考えていくことができるよう、小レポートや個人発表、グループ討議などを、随時、授業に取り入れてやっていきたいと思います。		
テキスト	特に使用せず、必要に応じて資料を配付します。	参考文献	E・H・エリクソン『幼児期と社会』（みすず書房） 津守真『子どもの世界をどうみるか』（NHKブック）
評価方法	授業内の小レポート・発表等:50% 学期末レポート:50%		

文化人類学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
文化人類学的なものの見方		田中 英資（たなか えいすけ）	
ねらい	文化人類学は、世界各地の様々な文化の持つ普遍性と特殊性についてフィールドワークに基づく研究から理論化することで、人間社会の諸相を切り取る視点を提供してきた。本講義では、自分たちにとって「当たり前」のことを「他者」を通して相対化して捉えなおす文化人類学の基本的な考え方について、トピックごとに整理しながら解説する。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 「人間」の概念 第3回 「文化」とは何か 第4回 フィールドワークと民族誌 第5回 人間の生業① 第6回 人間の生業② 第7回 人とモノの区別 第8回 人と人のやり取り 第9回 世界の見方 第10回 人の一生と儀礼 第11回 家族と結婚 第12回 社会の中での男と女 第13回 人種と民族 第14回 国家と国民 第15回 まとめ		
進め方	基本的には講義形式で授業を進める。ビデオや画像なども必要に応じて紹介したい。授業中にディスカッションの時間をとることも考えており、参加者の積極的な発言を期待する。		
テキスト	特に指定しない。適宜配布資料を用意する。	参考文献	綾部恒雄・桑山敬己編「よくわかる文化人類学」（ミネルヴァ書房） その他授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席点:40% レポート:60%		

文化人類学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
観光の文化人類学		田中 英資 (たなか えいすけ)	
ねらい	本講義では、観光に焦点をあてて文化人類学が今日的な課題にどのように向き合っているか、その一側面を紹介する。グローバル化の進展のなかで、観光は世界的な巨大産業として成長している。この観光という現象を文化人類学的にはどのように捉える事ができるのか、できるだけ多くの事例を取り上げながら解説する。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODククション 第2回 観光の誕生 第3回 観光の現在① 第4回 観光の現在② 第5回 観光とメディア 第6回 「青い海 沖縄」イメージができるまで 第7回 「楽園バリ」に住む人々 第8回 「妖精の煙突」と観光客 第9回 聖地としてディズニーランド 第10回 旅行商品の作り方 第11回 観光によって生み出されるモノ 第12回 世界遺産と観光 第13回 エコツーリズムの光と影 第14回 観光化する医療 第15回 まとめ		
進め方	基本的には講義形式で授業を進める。ビデオや画像なども必要に応じて紹介したい。授業中にディスカッションの時間をとることも考えており、参加者の積極的な発言を期待する。		
テキスト	特に指定しない。適宜配布資料を用意する。	参考文献	山下晋司編「観光文化学」（新曜社） その他授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席点:40% レポート:60%		

人文地理学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
自然と人間との関係を通して地理学的なものの考え方を養う		齋野 岳廊 (さいの たけろう)	
ねらい	地理学は、自然と人間とのかかわりを通して地表に刻まれた人間の営みを明らかにすることを目的としている。その対象とする分野はきわめて多岐にわたっているが、本科目では、主として「地域」、「環境」、「景観」といった地理学上のキー・コンセプトをベースに多数の具体的事例を取り上げ、地理学の基本理念が身につくことをねらいとする。		
授業計画	【前期】 第1回 導入講義—古民家や京の「町家」にみる自然と人間生活 第2回 身近な地域を考える (1) —「渋谷」の今昔 第3回 身近な地域を考える (2) —「東京」の自然誌 第4回 地理学をめざすものは何か—地表の科学としての地理学 第5回 地理学の二つの視点—系統地理学と地誌学 第6回 ヘットナーの地誌学—二元論の克服と地理学の統一 第7回 地理学における地域概念—等質地域と機能地域 第8回 チューネン「孤立国」の地理学的意義 (1)—理論の概要 第9回 チューネン「孤立国」の地理学的意義 (2)—機能地域論 第10回 景観学としての地理学—シュリューターのヘットナー批判 第11回 文化景観—ヨーロッパ中世の荘園集落にみる景観秩序 第12回 近世江戸の「三富新田」の農村景観とエコロジー (1) 第13回 近世江戸の「三富新田」の農村景観とエコロジー (2) 第14回 リサイクル社会・江戸時代の都市—農村関係 第15回 まとめと課題		
進め方	講義と板書を中心とした授業になりますが、プリント資料を配布し、なるべくわかりやすく説明します。したがって高校で「地理」を選択してなくても心配は要りませんが、講義内容が多岐にわたりますから、きちんと話を聞くようにして下さい。		
テキスト	テキストは使用しません。ほぼ毎回、配布するプリント資料がその代わりとなりますので、試験終了時までには保管しておいて下さい。	参考文献	中村和郎・手塚章・石井英也著(1991)：『地域と景観』（古今書院） 犬井 正著(2002)：『里山と人の履歴』（新思索）
評価方法	出席:10% 小テストなど平常点:20% 定期試験:70%		

人文地理学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
交通の地域的作用から現代社会を考える		齋野 岳廊 (さいの たけろう)	
ねらい	現代社会の特質の一つとして「交通革命」の進展をあげることができる。とりわけ、現代の大都市および大都市圏をハード面で支えているのが、都市交通の機能に他ならない。本科目では、都市構造を空間的に組織化する上で重要な役割を果たしている都市交通の地域的作用に着目して、具体的な事例を多数取り上げ、地域構造論の立場から講義する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 「交通革命」の進行する現代社会 第3回 地域と交通との相互作用 第4回 私鉄とターミナル文化―阪急電鉄の郊外形成史 第5回 交通立地からみた「新宿」の新都心形成史 (1) 第6回 交通立地からみた「新宿」の新都心形成史 (2) 第7回 交通立地からみた「新宿」の新都心形成史 (3) 第8回 大都市・大都市圏交通の現状と問題点 第9回 交通整備とスプロール化の進展 第10回 低密度分散型都市圏の形成と社会的費用の発生 第11回 通勤ラッシュ対策による電鉄資本の経営悪化 第12回 モーターゼーションと社会的費用の発生 第13回 大都市内部の交通対策―東京都区部を例として 第14回 大都市圏レベルの交通政策―東京大都市圏を例として 第15回 人口減少社会における地域交通のあり方―まとめにかえて		
進め方	講義と板書を中心とした授業になりますが、具体的な事例をなるべく多数取り上げ、わかりやすく説明します。受講するにあたっては特別な知識は要りませんが説明だけを聞いて終わりとするような姿勢ではなく、日ごろから本科目のテーマにそったニュースにも目をむけ、自分の頭で考える訓練を積むような努力を期待します。		
テキスト	テキストは使用しません。授業時にプリント資料を配布し、講義します。	参考文献	とくに指定しませんが、必要な文献は配布プリント等で明記します。
評価方法	出席:10% 作業課題などの平常点:20% 定期試験:70%		

マス・コミュニケーション論Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
ユビキタスとこれからの情報化社会		川村 受映 (かわむら じゅえい)	
ねらい	私達は今「インターネット」や「ブロードバンド」「モバイル通信」「ユビキタス」など、情報通信ネットワークと切り離せない社会に生きている。「情報化社会」とはどんな社会なのか、私たちの生活は以前とどのように変わり、これからどのような未来に向かっていくのかを探求する。		
授業計画	【前期】 第1回 授業のオリエンテーション、これからの情報化社会 第2回 メディアの歴史 第3回 インターネット 第4回 モバイル通信 第5回 ブロードバンド 第6回 ユビキタス1 第7回 ユビキタス2 第8回 情報通信の未来 第9回 IT情報技術革命 第10回 世界のユビキタス事情 第11回 U-Japan政策 第12回 ネチケットについて 第13回 情報化社会と私達 第14回 ブログ 第15回 ブログ		
進め方	講義が中心。毎回授業中に「ミニレポート」を書く。ミニレポートは、その日の理解度を見るため。自らの意見を述べることを重視するので、受講者は主体的関心を持って臨んでほしい。主な意見や質問は次の講義で紹介し、皆と共有する。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	授業中のミニレポート:50% 期末レポート:50%		

マス・コミュニケーション論Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
ユビキタスとオンライン・ジャーナリズム		川村 受映 (かわむら じゅえい)	
ねらい	世代や障害の有無を問わず、いつでも、どこでも、誰もが情報通信ネットワークを利用して社会に参加できるユビキタス時代。情報化を巡る社会環境は早いスピードで変わっている。既存のマスメディアだけでなく、一般人も情報発信が可能になった。この講座では、ユビキタス社会、オンライン・ジャーナリズム、などについて探求する。		
授業計画	【後期】 第1回 授業のオリエンテーション、これからの情報化社会 第2回 メディアの歴史 第3回 インターネット 第4回 モバイル通信 第5回 ブロードバンド 第6回 ユビキタス1 第7回 ユビキタス2 第8回 ユビキタス3 第9回 U-Japan政策 第10回 世界のIT事情 第11回 世界のユビキタス事情 第12回 オンライン・ジャーナリズム1 第13回 オンライン・ジャーナリズム2 第14回 ブログ1 第15回 ブログ2		
進め方	講義が中心。毎回授業中に「ミニレポート」を書く。ミニレポートは、その日の理解度を見るため。自らの意見を述べることを重視するので、受講者は主体的関心を持って臨んでほしい。主な意見や質問は次の講義で紹介し、皆と共有する。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	授業中のミニレポート:50% 期末レポート:50%		

マス・コミュニケーション論Ⅲ		後期 2 単位	1・2・3年
マスコミの報道について考える		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
ねらい	マスコミの報道・論評機能は、ジャーナリズムと呼ばれるが、この講義では、国際報道、災害報道、犯罪報道、科学報道などの具体的事例を題材として、マスコミの報道の現状と問題点について検討する。犯罪報道については、マスコミの報道姿勢や人権侵害の問題も取り上げる。パニック、政治などに対するマスコミ報道の影響についても検討する。		
授業計画	【後期】 第1回 マス・コミュニケーションの特徴 第2回 ジャーナリズム—ニュースと報道 第3回 国際報道 (1) 第4回 国際報道 (2) 第5回 災害報道 (1) 第6回 災害報道 (2) 第7回 犯罪報道 (1) 第8回 犯罪報道 (2) 第9回 誤報 第10回 皇室報道 第11回 科学報道 第12回 マスコミの報道と政治 第13回 マスコミの報道とパニック 第14回 マスコミ報道の影響 第15回 試験		
進め方	講義による。		
テキスト	特にない。資料を適宜配布する。	参考文献	朝日新聞社会部編『被告席のメディア』（朝日新聞社） 梓澤和幸著『報道被害』（岩波新書） 河野義行者『「疑惑」は晴れようとも』（文春文庫）
評価方法	出席:15% 定期試験:85%		

女性学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
パートナーシップの女性学		柚木 理子 (ゆき まさこ)	
ねらい	日本の女性のおかれている状況を恋愛・結婚・家族といったパートナーシップの観点から把握し、これらに見られる問題の諸相をとらえ、社会経済状況並びに社会制度との関連から考察していく。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 現代日本における問題の諸相 第3回 ジェンダーとは 第4回 ジェンダー規範と自己形成過程 第5回 家族を考える 第6回 女性のライフコースの変化 第7回 経済変動と結婚の変容 第8回 ジェンダーから考える結婚 第9回 恋愛再考：「モテる」ことの意味 第10回 若い男性の変容 第11回 親密性の中の暴力 第12回 デートDV 第13回 配偶者間の暴力 (DV) 第14回 新しいパートナーシップを求めて 第15回 まとめ		
進め方	統計資料並びに新聞・雑誌・映像等の資料を用いながら、女性のおかれている状況を人間関係に着目して考察していく。講義中心となるが、受動的な授業ではなく、各自の意見をミニペーパーにまとめ、テーマに関して主体的に考える姿勢を養う。		
テキスト	授業時に適宜紹介する	参考文献	授業時に適宜紹介する
評価方法	出席／兼ミニペーパー：30% 試験：70%		

女性学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
女性が働くことを考える		柚木 理子 (ゆき まさこ)	
ねらい	現代日本において働く女性がおかれている状況を多面的に分析し、問題の諸相を明らかにしていく。ワークルールを身に付け、また就職活動の基礎知識としても役立ててもらいたい。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 現代日本における問題の諸相 第3回 現代の就職事情 第4回 女性の職業選択 第5回 女性のキャリア形成 第6回 働く女性の歴史 第7回 男女雇用機会均等法の成立 第8回 ワーキングプア 第9回 貧困の女性化 第10回 バイト・パート・派遣で働くこと 第11回 ワークルールを学ぼう 第12回 セクシュアル・ハラスメント 第13回 職場で困ったときには 第14回 つながる労働者：ユニオン 第15回 まとめ		
進め方	統計資料並びに映像資料を用いながら、働く女性のおかれている現状を考える。講義中心となるが、受動的な態度ではなく、各自の意見をミニペーパーにまとめ、主体的に考える姿勢を養う。		
テキスト	授業時に適宜配布する	参考文献	授業時に指摘する
評価方法	出席／兼ミニペーパー：30% 試験：70%		

女性学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
性暴力と性の商品化		藤田 和美 (ふじた かずみ)	
ねらい	近代以降の女性解放運動から現代の女性学研究まで「女性学」という学問の成立の歴史的経緯とその成果を学び、現代の性をめぐる諸問題を検討する。特に、DV（ドメスティック・バイオレンス）やメディアにおける性表現や氾濫する性情報などを対象にして、性暴力について考え、女性の主体的な性と生のあり方を探っていききたい。		
授業計画	【前期】 第1回 性暴力とは 第2回 明治期の女性運動 第3回 青鞥の女性たち 第4回 産児調節運動 第5回 現代の女性をめぐる法、制度 第6回 教育・労働の中の性暴力ーセクシャル・ハラスメントー① 第7回 " ② 第8回 ストーカー被害 第9回 痴漢・強姦被害 第10回 DVとは何か 第11回 DV被害者支援 第12回 DV加害者 第13回 現代の性表現 第14回 性の商品化と表現の自由をめぐる 第15回 これからの性と生		
進め方	講義を中心とするが、ビデオなど視聴覚教材も用いる。毎回授業時には感想を書いて提出してもらう。		
テキスト	特に定めない。随時、資料をプリントして配布する。	参考文献	講義開始時に文献リストを配布する。
評価方法	レポート:50% 感想文:50%		

女性学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
女性と表現		藤田 和美 (ふじた かずみ)	
ねらい	芸術表現の領域において、女性の数は男性に比べて圧倒的に少なく、作品そのものも主流である男性の傍流として「女流」という位置付けがされることが少なくない。当時活躍しながら、芸術史に名をとどめていない女性芸術家の作品も含めて、多ジャンルにまたがる女性表現を鑑賞し、女性と笑いの関係性について考える。		
授業計画	【後期】 第1回 女性表現における笑いとは 第2回 シンデレラ〜変遷する女性像〜 第3回 闘う女性たち 第4回 新しい女性像の創造 第5回 文学における笑い① 第6回 " ② 第7回 現代アートにおける笑い 第8回 お笑いとは 第9回 落語と笑い 第10回 女性視点の笑いとは 第11回 笑いとは 第12回 女性コメディ映画① 第13回 " ② 第14回 流行歌と笑い 第15回 少女コミックとトランス・ジェンダー		
進め方	講義を中心とするが、毎回作品鑑賞をするためOHP・ビデオなど視聴覚教材を用いる。また、授業でとりあげた作品に対して、自分なりの意見、感想を毎回授業時に書いて提出してもらう。		
テキスト	特に定めない。随時、資料をプリントして配布する。	参考文献	講義開始時に文献リストを配布する。
評価方法	レポート:50% 感想文:50%		

幼児教育		前期 2 単位	1・2年
幼児期の発達と教育		志賀 智江 (しが ともえ)	
ねらい	<p>幼児期は、人間として成長発達する上で大切な基礎段階です。 この科目は、子ども学科を除く全学科の学生が、幼児の教育や子どもの諸問題に広く関心を持ち、子どもとその周辺の問題を多面的に考えていくことをねらいとして開講されているものです。</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 幼児教育における問題点とその要因 第2回 日本の子どもをとりまく環境 第3回 乳児期の発達と周囲のかかわり 第4回 幼児期の発達と周囲のかかわり 第5回 幼児教育の制度と保育施設の現況 第6回 保育ニーズと子育て支援、現況と今後の課題 第7回 子どもと家族・家庭教育 第8回 幼児の保健・栄養・安全 第9回 世界の子どもたちの現状と課題 第10回 子どもとジェンダー 第11回 子ども虐待 第12回 子どもの表現活動 第13回 幼児教育の歴史 第14回 幼児教育における問題と今後の課題 第15回 定期試験</p>		
進め方	講義を中心としますが、テーマによっては、ゼミ形式で進めたいと思います。内容に応じて、VTR・資料を用います。		
テキスト	志賀智江著『幼児教育』梓出版社	参考文献	授業の中で随時紹介します。
評価方法	平常点:50% 定期試験:50%		

幼児教育		後期 2 単位	1・2年
幼児期の発達と教育		志賀 智江 (しが ともえ)	
ねらい	<p>幼児期は、人間として成長発達する上で大切な基礎段階です。 この科目は、子ども学科を除く全学科の学生が、幼児の教育や子どもの諸問題に広く関心を持ち、子どもとその周辺の問題を多面的に考えていくことをねらいとして開講されているものです。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 幼児教育における問題点とその要因 第2回 日本の子どもをとりまく環境 第3回 乳児期の発達と周囲のかかわり 第4回 幼児期の発達と周囲のかかわり 第5回 幼児教育の制度と保育施設の現況 第6回 保育ニーズと子育て支援、現況と今後の課題 第7回 子どもと家族・家庭教育 第8回 幼児の保健・栄養・安全 第9回 世界の子どもたちの現状と課題 第10回 子どもとジェンダー 第11回 子ども虐待 第12回 子どもの表現活動 第13回 幼児教育の歴史 第14回 幼児教育における問題と今後の課題 第15回 定期試験</p>		
進め方	講義を中心としますが、テーマによっては、ゼミ形式で進めたいと思います。内容に応じて、VTR・資料を用います。		
テキスト	志賀智江著『幼児教育』梓出版社	参考文献	授業の中で随時紹介します。
評価方法	平常点:50% 定期試験:50%		

社会福祉概論		前期 2 単位	1・2・3年
社会福祉概論		笹岡 眞弓（ささおか まゆみ）	
ねらい	社会福祉とは何か。「ふつうのくらしのしあわせ」という、とすれば空疎な言い回しの本来的な意味を探る。暮らしの構成要素の吟味は基礎として学ぶべきものである。さらに、社会福祉学では人々の「幸せ」をどのように定義しているか？こうした疑問に学生一人一人が、自分自身の解答がもてるよう学習を深め、言語化できるようにする。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 慈善から社会事業を経て社会福祉へ、歴史を知る 第3回 少子高齢社会・格差社会・生老病死と生活 第4回 福祉の理念；ノーマライゼーション 第5回 ソーシャルインクルージョン 第6回 生活保護制度の概略 第7回 社会保障制度の概略 第8回 高齢者の福祉 第9回 障害者の福祉 第10回 児童の福祉 第11回 保健医療分野の福祉 第12回 社会福祉専門職のあり方（ソーシャルワーカー） 第13回 エンパワーメント 第14回 世界の中の日本。クライアントは地球の市民 第15回 試験		
進め方	講義は出来るだけ現代の事例を用い、考察を深める。毎回新聞の記事を社会福祉の視点から解説できるように努める。学生からの質問時間を設け議論の時間を設ける。積極的な発言を歓迎する。ビデオ教材も積極的に用いる。		
テキスト	『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房	参考文献	追って指定する
評価方法	試験:40% レポート:30% 出席:30%		

国際協力 I		前期 2 単位	1・2・3年
国際協力の考え方と仕組み		田中 英資（たなか えいすけ）	
ねらい	一国の政府だけでは解決できない問題を諸外国の政府やNGO、国際機関が力を合わせて、解決を目指そうとする国際協力への関心が高まってきている。本講義は、国際協力とは何か、その考え方や仕組み、歴史的変遷、国際協力の担い手を中心に解説する。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 「開発」の考え方 第3回 国際協力の基本的な仕組み 第4回 国際協力の歴史① 第5回 国際協力の歴史② 第6回 国際協力の歴史③ 第7回 国際協力の歴史④ 第8回 国際協力の新しい潮流 第9回 国際機関の役割 第10回 日本のODA 第11回 JICAの活動 第12回 青年海外協力隊 第13回 NGOの活動 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	基本的に講義形式で授業を進める。		
テキスト	特に指定しない。適宜配布資料を用意する。	参考文献	下村恭他編「新版 国際協力 その新しい潮流」（有斐閣） その他適宜紹介する
評価方法	出席点:40% 試験:60%		

国際協力Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
国際協力のフロンティア		田中 英資 (たなか えいすけ)	
ねらい	一国の政府だけでは解決できない問題を諸外国の政府やNGO、国際機関が力を合わせて、解決を目指そうとする国際協力への関心が高まってきている。本講義では、今日の国際協力の現状と課題について、貧困の克服や環境問題、医療、紛争の解決などにスポットを当てながら解説する。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション 第2回 「開発」に対する視点 第3回 グローバル化について 第4回 貧困問題の削減① 第5回 貧困問題の削減② 第6回 地球環境問題① 第7回 地球環境問題② 第8回 開発とジェンダー 第9回 開発と教育 第10回 保健医療の課題 第11回 人口問題と開発途上国 第12回 災害復興への協力 第13回 文化遺産保護への協力 第14回 フェアトレード 第15回 まとめ		
進め方	基本的には講義形式で授業を進める。授業中にディスカッションの時間をとることも考えており、参加者の積極的な発言を期待する。		
テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。	参考文献	内海成治編 「国際協力論を学ぶ人のために」(世界思想社) その他授業中に適宜紹介する
評価方法	出席点:40% レポート:60%		

キャリア・デザインⅠ		前期 2 単位	1年
キャリア論およびメンタリング論、キャリア形成上の諸問題		宇田 美江 (うだ みえ)	
ねらい	企業と個人を取り巻く環境として、少子高齢化、個人の価値観の変化、雇用の流動化、男女雇用機会均等法の施行など、キャリア形成における環境要因を講義する。また人生の中でのキャリアの位置づけ、キャリア開発の指導者・支援者であるメンターの定義と機能などを講義し、充実したキャリア人生を送るにはどうしたら良いかを考える。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 個人を取り巻くキャリアの環境要因 第3回 女性を取り巻くキャリアの環境要因① 第4回 女性を取り巻くキャリアの環境要因② 第5回 キャリア論の系譜 第6回 ライフステージ・ライフサイクル 第7回 トランジション・キャリアステージ 第8回 キャリアアンカーとは 第9回 キャリアアンカーの類型 第10回 メンターの定義と機能 第11回 キャリア形成の具体例① 第12回 キャリア形成の具体例② 第13回 キャリア形成の具体例③ 第14回 キャリア形成の具体例④ 第15回 まとめ		
進め方	講義だけでなく、ビデオ等の視聴覚教材を利用する。また、自己理解を深めるための課題への取り組み等を実施する。		
テキスト	合谷美江『女子大生のための仕事選びとビジネス・マナー』中央経済社、2004年。	参考文献	齊藤毅憲監修、菊地達昭・合谷美江編著『キャリア開発論』、2007年、文眞堂。エドガー H. シャイン著『キャリア・アンカー』白桃書房、2003年。
評価方法	出席及び提出物の内容:50% 期末レポート:50%		

キャリア・デザインⅡ		後期 2 単位	1年
雇用情勢の変化と企業への影響、企業における人材育成、従業員のキャリア形成		宇田 美江（うだ みえ）	
ねらい	激変する環境下で、雇用情勢がどのように変化し、その変化が企業の人材育成・キャリア開発にどのような影響を与えているかを考えたい。また、今後の雇用・人材育成にまつわる諸問題などをわかりやすく分析・検討していく。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション —人材マネジメントとは— 第2回 人材の獲得 —雇用の多様化— 第3回 人材の獲得 —採用— 第4回 人材育成① —キャリア開発— 第5回 人材育成② —OJTとOff-JT— 第6回 人材育成③ —管理職の役割の変化— 第7回 人材育成④ —管理職の早期選抜と育成— 第8回 人材の評価 第9回 人材の処遇① 第10回 人材の処遇② 第11回 人材フロー —配置や退職— 第12回 人材の尊重① —仕事と生活の調和— 第13回 人材の尊重② —労働組合の役割— 第14回 人材の組み合わせ 第15回 まとめ		
進め方	講義が中心であるが、ビデオ等の視聴覚教材も利用する。		
テキスト	守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞社、2004年、830円。	参考文献	齊藤毅憲監修、菊地達昭・合谷美江編著『キャリア開発論』文眞堂、2007年。
評価方法	出席及び提出物の内容:50% 期末レポート:50%		

自然科学概論Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
科学の社会史・文化史		河野 俊哉（こうの としや）	
ねらい	「科学」とは何かについて、歴史的に考察します。その際、高校までの「科学」が、主に理論を中心に学んでいたのに対し、本講義では、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。良い意味で皆さんの科学観が変わることを願っています。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 「科学」の誕生：「歴史観」について説明します。 第3回 「古代ギリシャの自然観」について説明します。 第4回 「錬金術と絵画」について概観してみましょう。 第5回 「12世紀ルネサンス」と「大学の誕生」 第6回 「ルネサンスから近代科学へ」～そして『薔薇の名前』 第7回 「科学革命論」再考Ⅰ：概略とその問題点を考察します。 第8回 「科学革命論」再考Ⅱ：中国の科学と西洋中心主義 第9回 「科学革命論」再考Ⅲ：魔術的自然観と機械論的自然観 第10回 「科学革命論」再考Ⅳ：「化学革命」の検討 第11回 「酸素の発見」と「パラダイム論」 第12回 産業革命期の自然研究者と「聖俗革命」 第13回 「科学コミュニケーション」入門：概略とその検討 第14回 本講義のまとめ：「教養教育」とは何か？ 第15回 試験		
進め方	講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課すなりして、双方向の授業を目指します。細かな科学知識は必要としませんが、各自の関心分野（英文学、芸術、教育等）から積極的に「科学」との関連を模索して下さい。		
テキスト	共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時にプリントを適宜配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年） 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年）
評価方法	出席（小レポート）:40% 授業外レポート:30% 試験:30%		

自然科学概論Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
テーマ別・科学論		河野 俊哉 (こうの としや)	
ねらい	「科学」と関連するテーマを科学的観点から考察し、「科学」に対する理解を深めることを目的とします。前半は、科学史的観点から、そして最終的には現代における科学・技術の諸問題を科学技術社会論的観点から考察します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 ダーウィンと進化論：概要と衝撃について説明します。 第3回 社会ダーウィニズムと「日本における進化論の受容」。 第4回 「科学とイギリス文学」に関する研究を概観します。 第5回 ダーウィニズムとウェルズ：『タイムマシン』を考察。 第6回 『フランケンシュタイン』を科学的に考察しましょう。 第7回 「絵画と科学」：フェルメール等を例に考察しましょう。 第8回 日本人と近代科学～『長州ファイブ』について 第9回 戦争と科学：フリッツ・ハーバーの生涯と業績 第10回 レイチェル・カーソン：科学・文学・環境 第11回 科学技術社会論入門Ⅰ：地球温暖化を例に説明します。 第12回 科学技術社会論入門Ⅱ：遺伝子組み換え作物について。 第13回 科学技術社会論入門Ⅲ：BSEと科学コミュニケーション 第14回 まとめ：科学リテラシーと「教養教育」の再構築について 第15回 試験		
進め方	講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課すなりして、双方向の授業を目指します。細かな科学知識は必要としませんが、各自の関心分野（英文学、芸術、教育等）から積極的に「科学」との関連を探索して下さい。		
テキスト	共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時にプリントを適宜配布します。	参考文献	井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年） 小林信一他編著『社会技術概論』（放送大学、2007
評価方法	出席（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%		

自然科学概論Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
古代・中世の宇宙観		八耳 俊文 (やつみみ としふみ)	
ねらい	古代・中世の人々が知る宇宙は小さく、身近な存在でした。そして宇宙を絶えず意識して生きていたのです。宇宙論が変わるということは大きさに言えば、人間の生き方まで変わることになりました。この時代の主に西洋の宇宙論をまなびます。宇宙の中で生まれた私たちにとって宇宙とは何か、そして私たちとは何か、あらためて考えてみましょう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 宇宙とコスモス 第2回 神話にみる宇宙のはじまり 第3回 天文現象 第4回 日本の宇宙論 第5回 古代ギリシアの天文学（1） 第6回 古代ギリシアの天文学（2） 第7回 プトレマイオスの数学的集成（1） 第8回 プトレマイオスの数学的集成（2） 第9回 アラビアの科学 第10回 12世紀ルネサンス 第11回 トマス・アキナスの時間論 第12回 宇宙は有限か無限か 第13回 「薔薇の名前」から知る中世 第14回 中世の宇宙論 第15回 試験		
進め方	プリントを配布し、それをもとに授業をおこないます。		
テキスト	なし	参考文献	トマス・クーン著、常石敬一訳『コペルニクス革命』（講談社学術文庫、1989）
評価方法	レポート：40% 定期試験：40% 出席点：20%		

自然科学概論Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
コペルニクス以降の宇宙論		八耳 俊文（やつみみ としふみ）	
ねらい	コペルニクスは『天球回転論』（1543）を著し、太陽中心説（地動説）を唱えました。この授業ではこのコペルニクス以降の16世紀から現代までの宇宙論の変遷をまなびます。人間にとって宇宙とは何か、宇宙の中にいる私たち人間とは何かを考えてみましょう。		
授業計画	【後期】 第1回 コペルニクス以前の宇宙論 第2回 コペルニクスの生涯と学説の概要 第3回 コペルニクス著『天球回転論』 第4回 ケプラーの宇宙多面体説 第5回 ケプラーと調和の信念 第6回 ティコ・ブラーエの観測と折衷体系 第7回 ガリレオと望遠鏡の世界 第8回 『天文対話』にみるガリレオの思考 第9回 ガリレオと宗教裁判 第10回 宇宙は無限である 第11回 顕微鏡と望遠鏡の歴史 第12回 銀河系の発見 第13回 現代宇宙論（1） 第14回 現代宇宙論（2） 第15回 試験		
進め方	プリントを配布して授業をおこないます。		
テキスト	なし	参考文献	サイモン・シン著、青木薫訳『ビッグバン宇宙論』（新潮社、2006）
評価方法	レポート:40% 定期試験:40% 出席点:20%		

自然科学概論Ⅴ		前期 2 単位	1・2・3年
近現代日本の科学技術		小山 俊士（こやま しゅんし）	
ねらい	19世紀に西欧諸国は世界中へ進出したが、その背景には優れた科学技術があった。その進出に直面したアジア諸国はそれぞれ科学技術の受容に努めたが、その中で最初に成功したのが日本である。日本が科学技術を受け入れていく過程を通じて、自然科学の特徴および社会との関係を理解することをめざす。		
授業計画	【前期】 第1回 日本の伝統科学と西欧の近代科学 第2回 蘭学と洋学 第3回 岩倉遣欧使節団と留学生の派遣 第4回 文明開化と工部大学校・工学部 第5回 帝国大学理科大学 第6回 殖産興業、産業革命と科学技術 第7回 日本での最先端の科学研究の始まり 第8回 戦争と帝国大学の拡大 第9回 理化学研究所と素粒子物理学 第10回 アジア太平洋戦争と科学動員 第11回 GHQと戦後の科学体制 第12回 通産省と高度経済成長 第13回 公害と資源、環境問題 第14回 ハイテク産業の成長と経済摩擦 第15回 期末試験		
進め方	講義を中心とする。テーマについての調査、配付資料についての読解や見解の提示を求めることもある。		
テキスト	特に定めない。毎回の講義で資料を配付する。	参考文献	特に指定しない。
評価方法	出席と授業態度:50% 期末試験:50%		

自然科学概論VI		後期 2 単位	1・2・3年
実験と機器から見る自然科学		小山 俊士 (こやま しゅんし)	
ねらい	ふつうの自然科学の教科書は、その理論にもとづいて構成されている。しかし、科学の歴史の大半は、自然の観測や実験によって作られてきた。この講義では実験やそのための機器に注目して、自然科学の特徴を捉えることを目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 総論：科学の理論と実験 第2回 ガリレオの落下実験 第3回 ボイルと空気ポンプ 第4回 望遠鏡と天文学 第5回 蒸気機関、産業革命と熱力学 第6回 化学反応と分子・原子 第7回 電磁気学と公開実験：ファラデー 第8回 細胞と生命 第9回 組織的な実験：リービッヒと有機化学 第10回 定数の測定：ミリカンと単位電荷 第11回 電磁波と無線通信 第12回 原子の構造：X線の発見から核分裂へ 第13回 電子顕微鏡、分光学とDNA 第14回 実験機器と測定装置：加速器と霧箱、泡箱 第15回 試験		
進め方	講義を中心とする。講義のテーマに関する調査や、資料の読解を求めることもある。		
テキスト	指定しない。講義で資料を配付する。	参考文献	毎回の講義で参考文献を紹介する。
評価方法	出席と授業態度:50% 試験:50%		

自然科学概論VII		前期 2 単位	1・2・3年
環境科学への招待ー環境問題を学際的に考えるー		内山 弘美 (うちやま ひろみ)	
ねらい	環境科学は、持続可能な社会の構築を目指し、自然科学・人文科学・社会科学を融合した学際的な学問分野です。本講義では、環境問題の解決には、様々な学問分野の協力が必要であることを学び、環境に対するホーリスティックなものの方見方を修得することを目的とします。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクションー環境科学とは何か？ー 第2回 世界の環境問題の歴史ー20世紀後半の欧米を中心に1ー 第3回 世界の環境問題の歴史ー20世紀後半の欧米を中心に2ー 第4回 日本の環境問題の歴史ー公営と政府・自治体・科学者ー 第5回 環境科学の提唱ー学際的な研究と教育をめざしてー 第6回 地球環境時代の環境科学 第7回 地球温暖化 第8回 グループ・ディスカッション 第9回 事前学習 (環境関連施設の見学) 第10回 環境関連施設の見学 第11回 事後学習 (環境関連施設の見学) 第12回 国際機関の取り組み 第13回 G I S と環境情報 第14回 青山エコ・キャンパス 第15回 まとめ		
進め方	自然科学の知識は前提とせず、文系の学生にもわかるように講義を行ないます。適宜、視聴覚教材を用います。グループ・ディスカッションなどの参加型学習を導入します。大学周辺の環境関連施設の見学も行なう予定です。		
テキスト	基本的に、プリントを配布します。	参考文献	河村武他『環境科学Ⅰ』『環境科学Ⅱ』『環境科学Ⅲ』朝倉書店、近藤次郎『環境科学読本』東洋経済新報社、環境省『環境白書』、その他随時指示します
評価方法	出席:30% 授業への参加:40% レポート:30%		

自然科学概論Ⅷ		後期 2 単位	1・2・3年
環境史の可能性—過去・現在・未来—		内山 弘美（うちやま ひろみ）	
ねらい	環境問題は、人間活動の結果として生じ、私たちの未来に重くのしかかっています。この問題を解決するためには、まず歴史を紐解くことが必要です。本講義では、環境にかかわる歴史的なトピックを学ぶことにより、現在私たちが直面している環境問題にどのように対処したら良いかを考えることを目的とします。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション - 環境史への招待 - 第2回 アメリカの自然環境史 第3回 沼田眞の環境思想—環境科学・自然保護とその教育— 第4回 日本の国立公園 第5回 環境倫理 第6回 環境問題と科学技術者の社会的責任1 第7回 環境問題と科学技術者の社会的責任2 第8回 グループ・ディスカッション 第9回 事前学習（環境関連施設の見学） 第10回 環境関連施設の見学 第11回 事後学習（環境関連施設の見学） 第12回 環境問題とSTS（科学・技術・社会論） 第13回 持続可能な発展 第14回 森林の多面的機能 第15回 環境リスク		
進め方	自然科学の知識は前提とせず、文系の学生にもわかるように講義を行ないます。適宜、視聴覚教材を用います。グループ・ディスカッションなどの参加型学習を導入します。大学周辺の環境関連施設の見学も行ないます。		
テキスト	基本的に、プリントを配布します。	参考文献	随時、指示します。
評価方法	出席:30% 授業への参加:40% レポート:30%		

統計学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
統計的方法の紹介、記述統計		本郷 茂（ほんごう しげる）	
ねらい	統計的情報を正しく把握するには、統計的手法について理解しておくことが必要である。統計学Ⅰでは、統計的手法を学ぶ上での初歩的な知識を身につけてもらうことを目標とする。		
授業計画	【前期】 第1回 統計的方法について 第2回 データの分類、グラフによる表示 第3回 " " 第4回 データの平均、中央値、最頻値 第5回 " " 第6回 データの標準偏差、分散 第7回 " " 第8回 相関係数 第9回 " " 第10回 統計と確率 第11回 " " 第12回 正規分布 第13回 " " 第14回 統計学Ⅰのまとめと演習 第15回 前期試験		
進め方	講義が中心となるが、毎回の講義内容の理解が重要となるため、各自の修得状況を確認する目的で授業中に数回小テストを行う。授業中に電卓（平方根（√）機能付き）を使用するため、毎回持参すること。毎回、授業中に計算課題など行うため、毎回の出席が重要である。期末試験を行うが、他に平常点（授業中の小テスト）、出席点を加味して評価す		
テキスト	第1回目の授業時に指示する。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	期末試験の評価 約:60% 授業中の小テスト等（平常点） 約:25% 毎回の出席等（出席点） 約:15%		

統計学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
確率分布、標本分布、推測統計		本郷 茂（ほんごう しげる）	
ねらい	統計学Ⅱでは、統計学の数学的理論体系に深入りすることを避け、応用的な立場から、演習問題を各自解くことを通して、統計学の基本的な概念や手法を修得することを目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 確率と確率変数 第2回 “ 第3回 確率変数の期待値 第4回 “ 第5回 主要な確率分布 第6回 “ 第7回 標本抽出 第8回 “ 第9回 統計的推定 第10回 “ 第11回 統計的検定 第12回 “ 第13回 回帰分析 第14回 統計学Ⅱのまとめと演習 第15回 後期試験		
進め方	統計学Ⅰで身につけた統計学の初歩的な知識を前提にして講義を進めていく。統計学Ⅰ同様に講義が中心となるが、各自の修得状況を確認する目的で授業中に小テストを行う。授業中に電卓（平方根（ $\sqrt{\quad}$ ）機能付き）を使用。授業中に計算課題などを行うため、出席が重要である。期末試験を行うが、他に平常点（授業中の小テスト）、出席点を加味して評		
テキスト	第1回目の授業時に指示する。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	期末試験 約:60% 授業中の小テスト等（平常点） 約:25% 毎回の出席等（出席点） 約:15%		

数学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
一筆書き／魔方陣		宮田 雅智（みやた まさのり）	
ねらい	高校の「数学Ⅰ」程度の知識を基礎に、「一筆書き」「魔方陣」を題材にして数学を学びます。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 ケーニヒスベルグの橋渡り 第3回 グラフの定義、次数、偶点と奇点 第4回 グラフの特徴、数学的帰納法 第5回 一筆書きの条件 第6回 イリテーションパズルと彩色グラフ 第7回 順列グラフと有向グラフ 第8回 重畳彩色グラフ 第9回 魔方陣の定義 第10回 色々な魔方陣 第11回 自然方陣と魔方陣（1） 第12回 自然方陣と魔方陣（2） 第13回 汎魔方陣の作成 第14回 汎魔方陣の条件 第15回 汎魔方陣の作成		
進め方	2つのテーマ（一筆書き、魔方陣）をとりあげ、各テーマは数回の授業で完結するように進めていきます。一方的に講義を聞くだけではなく、演習を通して、問題の本質がどこにあるかを考え、その意味を明らかにし、数学の面白さを体験したいと思います。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布します。	参考文献	『教養の数学』柴岡泰光著、『はじめてであうすうがくの絵本 1, 2, 3』安野光雅著
評価方法	レポート:60% 平常点:40%		

数学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
二進数／素数		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
ねらい	高校の「数学Ⅰ」程度の知識を基礎に、「二進数」「素数」を題材にして数学を学びます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 二進数 第3回 二進数と十進数 第4回 倍加法と逆倍加法 第5回 二進数の演算 第6回 数当てゲーム 第7回 二進カードの分類 第8回 情報のデジタル化 第9回 エラトステネスのふるい 第10回 素数は無限にあるか 第11回 素因数分解の一意性 第12回 約数の和 第13回 完全数 第14回 メルセンヌ数とユークリッド型完全数 第15回 素数と暗号		
進め方	2つのテーマ(二進数、素数)をとりあげ、各テーマは数回の授業で完結するように進めていきます。一方的に講義を聞くだけではなく、演習を通して、問題の本質がどこにあるかを考え、その意味を明らかにし、数学の面白さを体験したいと思います。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布します。	参考文献	『教養の数学』柴岡泰光著
評価方法	レポート:60% 平常点:40%		

生物学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
植物のかたちと分類		若林 三千男 (わかばやし みちお)	
ねらい	有史以前から人間は植物の多様なかたちを認識して身の回りの種類を見分け、農業や医学をはじめさまざまな文明を発達させてきた。この講義では、主に被子植物のかたちやそのはたらきについて学び、これを通して、地球上の環境や人間生活にとって植物がいかに欠かせぬ存在であるか理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 植物とわたしたち 第2回 陸上植物を構成するグループと生活史 第3回 植物の分類と学名 第4回 植物の細胞・組織とからだの特徴(1) 第5回 植物の細胞・組織とからだの特徴(2) 第6回 シュート系:茎と葉 第7回 シュート系:成長様式 第8回 根の基本的構造とはたらき 第9回 花の基本的構造と成り立ち(1) 第10回 花の基本的構造と成り立ち(2) 第11回 花序のいろいろと送粉様式 第12回 花から果実へ生殖様式の進化 第13回 花から果実へ果実のいろいろ 第14回 種子と種子の芽生え 第15回 まとめ		
進め方	講義を中心とするが、プロジェクターを利用して要点を視覚的に把握できるように進める。理解の助けとして、ときどきビデオ・DVDを映写することもある。		
テキスト	特に定めない。配布資料を活用する。	参考文献	原 襄 著「植物の形態」裳華房
評価方法	出席:40% 定期試験:60%		

生物学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
生物の普遍性と多様性		若林 三千男 (わかばやし みちお)	
ねらい	生命体は、本質的に共通の原理（細胞を基本単位とし、代謝と遺伝を基本機能とする）をもった物質系であるということ、そしてそれを基盤としながら多様な生物が出現・展開しているということを理解する。		
授業計画	【後期】 第1回 生物の特質 第2回 生を演出する物質 第3回 細胞の構造 第4回 同化と異化：エネルギーの獲得と利用 第5回 呼吸によるATP合成 第6回 光合成によるATP合成 第7回 光合成による二酸化炭素同化 第8回 細胞の分裂 第9回 DNAの複製 第10回 遺伝子の発現：転写 第11回 遺伝子の発現：翻訳 第12回 遺伝子発現の調節 第13回 生物の多様性と分類 第14回 進化と系統 第15回 まとめ		
進め方	講義を中心とするが、プロジェクター利用して要点を視覚的に把握できるように進める。理解の助けとして、ときどきビデオ・DVDを映写することもある。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配付する。	参考文献	石川 統 著「生物学入門」東京化学同人
評価方法	出席：40% 定期試験：60%		

環境科学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
環境問題の科学的理解		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
ねらい	人間と環境が調和した社会を構築するためには、種々の環境問題に広い視野を持って対応することが必要です。環境問題を科学的に的確に理解し、判断し、対応できるように柔軟な考え方を育て、健全な環境保全の意識を養うことを目的とします。		
授業計画	【前期】 第1回 地球環境問題の概略 第2回 地球温暖化・二酸化炭素問題 第3回 地球温暖化・二酸化炭素問題 第4回 オゾン層破壊 第5回 オゾン層破壊 第6回 酸性雨 第7回 酸性雨 第8回 森林の保護 第9回 砂漠化・生物多様性 第10回 放射能汚染 第11回 国際的な観測網 第12回 国際的な観測網 第13回 環境を守る生き方 第14回 環境と国際協力 第15回 試験		
進め方	講義を中心に進める。		
テキスト	適宜資料を配布する。	参考文献	日本化学会編「暮らしと環境科学」（東京化学同人）。その他適宜紹介する。
評価方法	出席：50% 試験：50%		

環境科学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
身近な製品から発生する化学物質による環境問題と健康影響		本波 裕美 (ほんなみ ひろみ)	
ねらい	現在、豊かさで便利な生活を求めて多くの製品が作られ利用されている。資源の開発、製品製造、使用、廃棄の段階で出された有害物質は環境中に長期間循環・蓄積し、生態系や健康に影響を与えるようになった。授業では有害物質がどのような製品に使われ、世界ではどのような環境問題や健康被害が生じているのかを知る。さらに対策を考える。		
授業計画	【後期】 第1回 環境汚染と健康被害—現代の特徴 第2回 放射線の利用と問題Ⅰ 第3回 放射線の利用と問題Ⅱ 第4回 有害物質の環境中での循環と蓄積 第5回 安全とは、基準値・許容量・認定とは 第6回 アスベストの利用と健康被害 第7回 水銀の利用と環境汚染 第8回 鉛製品による環境汚染と健康被害 第9回 カドミウムによる土壌汚染と健康被害、世界の対策 第10回 地下水・土壌の汚染 第11回 家庭の中の有害物質Ⅰ 第12回 家庭の中の有害物質Ⅱ 第13回 エコとはどのようなことなのか 第14回 シックハウス、化学物質過敏症 第15回 まとめ		
進め方	毎回配布プリントを資料とし、プリントの解説を中心に講義形式で進める。毎回提起された設問に対し、自ら考え、授業のテーマを理解し深めることを重視する。自分が日常使っている製品にどのような化学物質が含まれており、どのような健康被害をもたらすのか、できるだけ関心を持つよう心掛けて欲しい。		
テキスト	特に定めない。配付プリントを活用する。	参考文献	講義で随時紹介する。
評価方法	毎回の設問の回答評価:60% レポート:40%		

生活科学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
日常生活と科学		梅澤 香代子 (うめざわ かよこ)	
ねらい	私たちの豊かな日常生活は科学・技術の発展に支えられている。本科目において、科学特に化学における最も基礎的な知識を学び、その応用と日常生活とのかかわりについて学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 虹はどうして七色に見えるのか 第2回 電磁波を使って身体の中を見る(1) 第3回 電磁波を使って身体の中を見る(2) 第4回 原子 第5回 原子の色を見る 第6回 大気について(1) 第7回 大気について(2) 第8回 水(1) 第9回 水(2) 第10回 原子力 第11回 プラスチックとポリマー(1) 第12回 プラスチックとポリマー(2) 第13回 環境・資源・エネルギーの化学(1) 化学物質とは? 第14回 環境・資源・エネルギーの化学(2) 地球温暖化 第15回 試験		
進め方	テキストは使用しない。その代り資料を配布する。時によりビデオ、プロジェクタなどを使う。時間の許す限り、簡単な重要な実験を講義内容の理解を深めるために行う。		
テキスト		参考文献	
評価方法	授業後の小テスト:20% 試験またはレポート:80%		

生活科学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
科学と生命活動		梅澤 香代子（うめざわ かよこ）	
ねらい	遺伝子診断、DNA鑑定、遺伝子組み換え食品など、私たちの身体や生命活動に関する色々な専門用語が新聞、テレビなどでもたびたび取り上げられています。これら専門用語の意味を知り、情報に振り回されることなく、自分なりに判断できるための最低限の基礎的知識を学び、科学技術と私たちの生活とのかわりについて考える。		
授業計画	【後期】 第1回 化学の基礎 第2回 化学の基礎 第3回 水の性質 第4回 物の溶け方（水に溶けるもの、溶けないもの） 第5回 食品の酸性、アルカリ性 第6回 アミノ酸とタンパク質 第7回 炭水化物 第8回 脂肪 第9回 消化 第10回 DNA 水素結合 第11回 DNAと遺伝 第12回 薬 第13回 食品添加物 第14回 いわゆるドラッグについて 第15回 試験		
進め方	テキストは使用しない。その代り資料を配布する。時によりビデオ、OHPなど使う。理解を深めるために可能な限り実験をする。		
テキスト		参考文献	
評価方法	出席と小テスト:20% 試験またはレポート:80%		

生活科学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
水と生活		山田 裕子（やまだ ひろこ）	
ねらい	水は生命の維持や、様々な生活活動をする上で欠かすことのできない物質である。水は私たちの周囲にもっとも豊富にある液体で、その性質はごく一般的な液体のように思えるが、単純な構造の割に、特殊な性質を持つ。それ故に、生命の営みや生活活動に役立っているといえる。本講では、この不思議な水の性質、生活用水としての水について考える。		
授業計画	【前期】 第1回 I. 水の性質 1) 水の歴史と地球上の水①地球誕生と水 第2回 ②古代の人たちの水感③地球上の水 第3回 2) 水分子の構造 3) 水の三態変化 第4回 4) 表面張力 第5回 5) 水の化学作用 6) 水の溶解力 第6回 II. 飲料水の水質と浄化システム 1) 生活水の現状 第7回 2) 水道水の水質基準 3) おいしい水の条件 第8回 4) 浄水システム—飲み水を作る 第9回 5) 買う水・ミネラルウォーター 6) 水と料理 第10回 III. 生活排水と浄化 1) 水質汚濁とは何か 第11回 2) 生活排水と水の汚れ 3) 水とトイレ 第12回 4) 下水処理水のリサイクル 第13回 5) 自然界の大きなろ過装置 第14回 IV. 生体と水 1) 水と人体 2) からだが求める水 第15回 テスト		
進め方	講義を中心に進める。受講生が少ない場合には簡単な実験も組み入れる。		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	伊勢村壽三「水の話」（培風館）
評価方法	定期試験:80% 出席点:20%		

生活科学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
水をめぐる身近な現象の化学		山田 裕子（やまだ ひろこ）	
ねらい	私たちは水とかかわりながら一日の生活を始める。顔を洗う、歯を磨く、これらは顔や髪を水に濡らすことでもある。さらに潜在や歯磨き剤を使って顔や歯の表面の汚れを水に移して洗浄する。このように身近な生活の中の、水にかかわる様々な現象に目を向け、考えてみよう。化学が身近になって、おもしろさを感じてほしい。		
授業計画	【後期】 第1回 I. 序 1) 水とは 2) 水の特徴 第2回 3) 身近な水 第3回 II. ぬれの現象 1) ぬれとは 2) ぬれのタイプ 第4回 3) 接触角 第5回 4) ぬれと接触角ヒステリシス 第6回 5) ぬれの調節・きれいな固体面 6) ぬれと曇り 第7回 III. 水と油を混ぜる 1) 水と油は混じりにくい？ 第8回 2) エマルションの形態 3) 界面活性剤の働き 第9回 IV. 洗う 1) 水と洗濯 第10回 2) 洗剤とは 第11回 3) 洗浄力を評価する 4) 規格化されている洗浄力試験 第12回 5) 洗濯の対象となる汚れ 6) 洗濯の条件 第13回 続・洗濯の条件 第14回 7) 家庭洗濯の検証 8) 界面活性剤の生分解性 第15回 テスト		
進め方	講義を中心に進める。		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	中西茂子・阿部幸子ほか著「被服整理学」（朝倉書店）北原文雄著「コロイドの話」（培風館）阿部幸子編著「洗濯と洗剤の化学」（放送大学教育振
評価方法	小テスト:30% 定期試験:50% 出席点:20%		

情報科学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
情報技術と社会の関わりを知る		島崎 みどり（しまざき みどり）	
ねらい	現在の情報社会では、コンピュータを使うのは一般的です。しかし、コンピュータがなぜ文字が入力できたり計算できるのか知っている人は少ないと思います。本授業では、コンピュータの仕組みや、人間がどのようにコンピュータやソフトウェアを作ったのか、今後どのように発展してゆくのか学びます。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 コンピュータ概要、ユビキタス社会 第3回 ユビキタスを支える技術：10タグ 第4回 計算機の発達Ⅰ 第5回 計算機の発達Ⅱ 第6回 コンピュータの仕組み（基本の仕組み） 第7回 コンピュータの仕組み（数値、基数と変換） 第8回 コンピュータの仕組み（論理演算、ソフトウェア） 第9回 プログラミングと言語 第10回 コンピュータの利用 第11回 技術の進歩と現状 第12回 特別講義 第13回 発表Ⅰ 第14回 発表Ⅱ 第15回 定期試験		
進め方	基本的に1回ごとに講義資料を用意し、それによって講義を行います。履修を予定している人はガイダンスに参加してください。		
テキスト	特にテキストは使用せず、講義資料を用います。	参考文献	授業ごとに提示します。
評価方法	授業（課題含む）:40% 定期試験:30% 発表:30%		

情報科学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
インターネットと社会		小山 俊士 (こやま しゅんし)	
ねらい	現代社会のあらゆる場面で使われるコンピュータと的確につきあっていくための、基礎教養を身につけることを目的とする。情報科学Ⅱでは、インターネットに代表される通信技術を中心として、歴史的な発展や社会との関わりを解説し、情報科学の基本的な考え方の理解を目指す。		
授業計画	【後期】 第1回 情報とは？ 第2回 インターネットの発達 第3回 インターネットを支える技術 第4回 ネット社会の危険性 第5回 暗号とセキュリティ 第6回 コンピュータ上での日本語の利用 第7回 音楽のデジタル化と著作権 第8回 検索とグーグル 第9回 ネット・ビジネスとAmazon 第10回 電子書籍 第11回 携帯電話 第12回 ウィキペディアとオープンソース 第13回 デジタル・デバイスと情報リテラシー 第14回 情報社会 第15回 まとめ、レポート		
進め方	講義を中心とするが、その中で提示する資料を読み、関連する事項について自ら調べ、考えたことをレポートにすることも求める。 コンピュータやネットワークに関する基礎知識は必要としないが、情報を検索し参照することができるのが望ましい。		
テキスト	特に指定しない。必要な資料は毎回の講義で配布する。	参考文献	毎回の講義で指示する。
評価方法	出席:20% 授業態度:20% レポート:60%		

基礎情報処理		前期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		齋藤 真弓 (さいとう まゆみ)	
ねらい	本講座は、パソコンの操作実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、セキュリティや情報モラルなども学びながら、総合的な活用能力が身につくことを目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、実習環境準備。メールの利用 第2回 システム環境、コンピュータの基本操作 第3回 コンピュータ利用に関する知識 第4回 Word (1) 文章編集、印刷環境 第5回 Word (2) 画像、図形描画 第6回 Word (3) ビジネス文書の知識 第7回 インターネット概説、メールの送受信 第8回 Word (4) 罫線処理 第9回 PowerPoint (1) スライド作成の基礎 第10回 PowerPoint (2) アニメーション効果 第11回 PowerPoint (3) テーマ別課題 第12回 Excel (1) 基礎 第13回 Excel (2) 関数・グラフ 第14回 Excel (3) 関数の利用 第15回 Excelによるワープロ利用、まとめ		
進め方	実習は、解説に従って実際に操作し、課題を仕上げるにより、技術を確実に身につけるよう指導する。コンピュータの基礎知識に関しては、多面的に学べるよう実習の合間にてできるだけ多く取り入れていきたい。		
テキスト	宮田雅智・宮治裕「情報基礎講義」同文書院 ほか プリント教材	参考文献	海老澤信一・齋藤真弓「情報リテラシー基礎」改定 最新版 2010年4月発行
評価方法	実習課題:70% 平常点:30%		

基礎情報処理		後期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		齋藤 真弓（さいとう まゆみ）	
ねらい	本講座は、パソコンの操作実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を得るとともに、セキュリティや情報モラルなども学びながら、総合的な活用能力が身につくことを目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、実習環境準備。メールの利用 第2回 システム環境、コンピュータの基本操作 第3回 コンピュータ利用に関する知識 第4回 Word（1）文章編集、印刷環境 第5回 Word（2）画像、図形描画 第6回 Word（3）ビジネス文書の知識 第7回 インターネット概説、メールの送受信 第8回 Word（4）罫線処理 第9回 PowerPoint（1）スライド作成の基礎 第10回 PowerPoint（2）アニメーション効果 第11回 PowerPoint（3）テーマ別課題 第12回 Excel（1）基礎 第13回 Excel（2）関数・グラフ 第14回 Excel（3）関数の利用 第15回 Excelによるワープロ利用、まとめ		
進め方	実習は、解説に従って実際に操作し、課題を仕上げることにより、技術を確実に身につけるよう指導する。コンピュータの基礎知識に関しては、多面的に学べるよう実習の合間にできるだけ多く取り入れていきたい。		
テキスト	宮田雅智・宮治裕「情報基礎講義」同文書院 ほか プリント教材	参考文献	海老澤信一・齋藤真弓「情報リテラシー基礎」改定 最新版 2010年4月発行
評価方法	実習課題:70% 平常点:30%		

応用情報処理		前期 2 単位	1・2・3年
表計算と統計／集計処理		宮田 雅智（みやた まさのり）	
ねらい	実際にパソコンを利用しながら、表計算ソフトウェアの利用方法を習得すると同時に、統計の基礎概念を理解することを目的とします。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 Excelの基本操作、式と関数の基礎 第3回 表示形式と表の消書、グラフ作成、課題演習 第4回 課題演習 第5回 関数（1）IF、COUNTIF、課題演習 第6回 統計の基礎、課題演習 第7回 課題演習 第8回 関数（2）SUMIF、課題演習 第9回 関数（3）VLOOKUP、課題演習 第10回 クロス集計、課題演習 第11回 課題演習 第12回 データの加工（1） 第13回 課題演習 第14回 データの加工（2） 第15回 課題演習		
進め方	講義と演習を交互に進めていきます。		
テキスト	情報基礎講義（宮田雅智・大谷康晴・宮治裕著 青山学院購買会）	参考文献	なし
評価方法	課題の進捗:70% 出席:30%		

総合科目Ⅱ「女性と身体」	通年 4 単位	1・2・3年
女性と身体		
<p>【担当教員】</p>		
<p>荒木 純子（あらき じゅんこ）、梅垣 千尋（うめがき ちひろ）、鈴木 直子（すずき なおこ）、森下 春枝（もりした はるえ）</p>		
<p>【ねらい】</p>		
<p>「身体」や「健康」について、多くの情報が溢れています。この科目では男女の性差をより強く意識しながら、身体や健康をめぐる女性特有の問題について考えます。 女性身体に関わるさまざまな体験（月経、出産、服装、化粧などを含む）が歴史的・社会的にどのように意味づけられてきたのかについても、近代社会が成立していく過程に沿って見ていきます。 また、生物学的性差とは別の概念であるジェンダー（社会的性差）という概念についても紹介します。</p>		
<p>この科目は4人の担当者が4部に分かれてリレー式で講義を行います。第一部のテーマは、健康科学から見た女性の身体です。第二部は、ヨーロッパ古代から中世・近世にかけての女性身体観や、女性の身体体験と語りについて扱います。第三部はヨーロッパ近代、第四部は日本近代が扱われ、身体加工や生殖管理など、女性身体をめぐる諸問題をとりあげます。また担当者4名以外にも講師をお呼びして特別講義を行い、多様な視点から女性身体にせまります。</p>		
<p>第1回 イントロダクション（森下、荒木、梅垣、鈴木）  第2回 特別講義：女性身体と医療（福岡秀興、森下）  第3回 女性の健康と運動-エネルギー代謝のメカニズム（森下）  第4回 女性の健康と食事-健康なダイエットのやり方（森下）  第5回 女性とスポーツ-スポーツにともなう摂食障害（森下）  第6回 女性の健康法-日本と西洋の身体教育・養生法（森下）  第7回 女性の老いと生きがい-高齢社会を生きる知恵（森下）  第8回 前期中間まとめ  第9回 西洋近代以前の身体とジェンダー1 異性装（荒木）  第10回 西洋近代以前の身体とジェンダー2 聖女と魔女（荒木）  第11回 西洋近代以前の身体とジェンダー3 魔術と医術（荒木）  第12回 西洋近代以前の妊娠・出産観1 婦人科学（荒木）  第13回 西洋近代以前の妊娠・出産観2 産科学（荒木）  第14回 特別講義：聖書に描かれた女性の身体（谷口裕子、荒木）  第15回 前期まとめ  第16回 後期ガイダンス  第17回 近代における女性と身体（梅垣）  第18回 近代医学における性差理解：女性身体の科学的把握（梅垣）  第19回 近代フェミニズムの誕生：差異と平等のあいだで（梅垣）  第20回 生殖管理と女性の性的自己決定（梅垣）  第21回 近代社会の女性：伝統社会の女性：身体加工から考える（梅垣）  第22回 特別講義：女性身体と生理学（渡部かなえ、梅垣）  第23回 後期中間まとめ  第24回 欧米から見た日本と女性身体（鈴木）  第25回 明治期日本における女性身体の近代化（鈴木）  第26回 生殖政策と国家管理（鈴木）  第27回 女性の身体体験と小説・表現・表象（鈴木）  第28回 生殖技術と性的自己決定（鈴木）  第29回 特別講義：女性身体と医学（酒井シヅ、鈴木）  第30回 まとめ会（森下、荒木、梅垣、鈴木）</p>		
<p>【進め方】 担当の四教員によるチームティーチングに、学内外のゲストスピーカーを交えつつ進めます。講義を中心に、さまざまな資料・史料を参加者各自が読み、考え、討論したり、感想を書いてもらうなど、参加型の授業となります。</p>		
<p>【テキスト】 授業中に適宜配布。</p>		
<p>【参考文献】 トマス・ラカー『セックスの発明』、長谷川まゆ帆『お産椅子への旅』、荻野美穂『ジェンダー化される身体』。</p>		
<p>【評価方法】 出席カードと授業への積極的参加20パーセント、前期レポート40パーセント、後期レポート40パーセント。</p>		

総合科目Ⅲ「ルネサンス」	通年 4 単位	1・2・3年
ルネサンスの文化・社会・自然		
<p><b>【担当教員】</b>  大野 芳材（おおの よしき）、橋本 典子（はしもと のりこ）、樋笠 勝士（ひかさ かつし）、渡部 徳子（わたなべ とくこ）</p> <p><b>【ねらい】</b> ルネサンスは、14、15世紀イタリアに開花した豊かな文化であり、そして誰もが芸術都市フィレンツェと共に、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエロ、ミケランジェロの名前を想う。ルネサンスの拡がりは全ヨーロッパに波及しすべての学問に大きな影響を与えた。授業では担当者4名が、それぞれ芸術、科学、思想、文化等の観点から多面的な文化的思想運動であるルネサンスを取り上げる。芸術とそれを熟成させた社会、或いは社会構造について多角的に学ぶことを身に付け、自由な知識と感性が開花した時代を追体験してもらうのが主なねらいである。</p> <p>ルネサンスの時代には、科学的見方がアラビアから西洋に導入された。特に遠近法、占星術、錬金術、印刷術等、科学技術での新たな発見があり、現実をいかに見るか、その方法と考え方が論じられた。レオナルドの『科学論』はその特徴を明確に示している一例である。</p> <p>4人それぞれの教師にレポートを提出することが義務である。</p> <p>第1回 序論 （大野、渡部、樋笠、橋本）</p> <p>第2回 中世のキリスト教美術Ⅰ ジョットを中心に（大野）  第3回 中世のキリスト教美術Ⅱ シモネ・マルティーニとシエナの美術  第4回 マサッチオの挑戦  第5回 フラ・アンジェリコとボッティチェリ  第6回 ラファエロとレオナルド  第7回 ミケランジェロとマニエリスム  第8回 フランス美術のルネサンス</p> <p>第9回 ルネサンスの自然科学 （渡部）  第10回 総論－科学技術の新たな展開  第11回 印刷技術と学問・技術の広がり  第12回 地球の理解－天文学・航海術・羅針盤  第13回 自然科学と建築  第14回 科学実験とその成果（医・薬・人体）  第15回 科学的な認識と芸術</p> <p>第16回 「ルネサンス」とは何か－言葉の意味 （樋笠）  第17回 歴史的な概念としてのルネサンス  第18回 ルネサンスにおける学問・芸術・文化の多様性（1）  第19回 ルネサンスにおける学問・芸術・文化の多様性（2）  第20回 ルネサンスにおける学問・芸術・文化の多様性（3）  第21回 ルネサンスにおける学問・芸術・文化の多様性（4）  第22回 時代を超えた一般概念としてのルネサンス－その普遍性</p> <p>第23回 Humanism（人文主義）とは （橋本）  第24回 人類の教師としてのダンテ、『神曲』を中心に  第25回 新プラトン主義と芸術表現  第26回 科学的観察とその成果  第27回 ピコ・デラ・ミランドーラ、人間の尊厳  第28回 人文主義者エラスムスと宗教改革  第29回 フランス・ルネサンス</p> <p>第30回 まとめ （大野、渡部、樋笠、橋本）</p> <p><b>【進め方】</b> 4人の教員がそれぞれのテーマについて講義を行う。具体的作品やその他必要に応じてパワーポイントやビデオを使って説明をする。</p> <p><b>【テキスト】</b> 教科書は特に指定しない。適宜資料を配付する。</p> <p><b>【評価方法】</b> 4人へのレポート結果70%、出席及び受講態度30%</p>		

総合科目Ⅳ「平和」	通年 4 単位	1・2・3年
平和について学び考える		
<p><b>【担当教員】</b>  河見 誠（かわみ まこと）、鈴木 直子（すずき なおこ）、豊川 慎（とよかわ しん）、西村 幹子（にしむら みきこ）  〔ねらい〕  20世紀は戦争の世紀と言われた。21世紀は「平和」の世紀となるのであろうか。イエスカノーか、その答えは、21世紀に生きる私たち一人一人にかかっている。この授業では、四つの側面から平和について深く学ぶ。そして各人が平和をどう受けとめ、今、何に取り組んでゆけばよいのかを自分の問題として考えていく。</p> <p><b>〔授業計画〕</b>  <b>前期</b>  &lt;オリエンテーション&gt;  第1回 オリエンテーション</p> <p>&lt;第Ⅰ部：平和とは何か－平和の構造と枠組み&gt;（河見担当）  第2回 平和を妨げるものとは？  第3回 暴力を暴力で制す？1  第4回 暴力を暴力で制す？2  第5回 私たちはどんな社会に生きているか？1  第6回 私たちはどんな社会に生きているか？2  第7回 自分を取り巻いている文化について考える  第8回 第Ⅰ部のまとめ</p> <p>&lt;第Ⅱ部：平和への取り組みの実際&gt;（西村担当）  第9回 世界地図にみる平和とは？  第10回 「貧しさ」と平和  第11回 「豊かさ」と平和  第12回 世界の子どもたちと平和  第13回 平和を創り出す現場①－政策・国家レベル  第14回 平和を創り出す現場②－草の根レベル  第15回 第Ⅱ部のまとめ</p> <p><b>後期</b>  &lt;第Ⅲ部：平和と文学－個別具体的な人間の営みから見た平和&gt;（鈴木担当）  第16回 文化的暴力とは何か1：戦争を記憶するということ  第17回 文化的暴力とは何か2：沖縄戦の記憶のされ方  第18回 記憶の物語：目取真俊「魂込め」を読む1  第19回 記憶の物語：目取真俊「魂込め」を読む2  第20回 女性と戦争・平和1：戦場での女性への暴力  第21回 女性と戦争・平和2：戦争協力と女性、平和構築と女性  第22回 第Ⅲ部のまとめ</p> <p>&lt;第Ⅳ部：キリスト教と平和－キリスト教思想史から考える平和の問題&gt;（豊川担当）  第23回 イントロダクション－21世紀の平和の神学の課題  第24回 古代から中世のキリスト教思想における戦争と平和  第25回 宗教改革期から現代のキリスト教思想における戦争と平和  第26回 聖書における平和の諸相  第27回 キリスト教思想における赦しと和解  第28回 キリスト教教育思想から考える平和教育  第29回 第Ⅳ部のまとめ</p> <p>&lt;ふりかえり&gt;  第30回 ふりかえりの会</p> <p><b>〔進め方〕</b>  4人の教員によるオムニバス形式である。ただし、初回と最終回は、オリエンテーションとふりかえり。受講者には、平和を学ぶための国内外のスタディ・ツアーや勉強会（短大主催のものとしては、那須アジア学院ワークキャンプ・沖縄を学ぶツアー等もある。また海外スタディ・ツアーを支援する短大特別奨学金制度もある。）に積極的に参加することを勧める。なお、内容と進め方の詳細は、初回の授業時にプリントを配布して説明する。</p> <p><b>〔テキスト〕</b>  テキスト・参考文献は、オリエンテーション時及び各担当者の授業時に指示する。</p> <p><b>〔評価方法〕</b>  各担当者ごとのレポート（計4本）の他、授業への参加度合い（出席、授業態度、授業中のミニレポート、授業外での自主的学びの報告も含む）も加味して評価する。レポート70% 授業への参加度合い30%。</p>		

創作指導「短歌」Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
短歌に親しむ		高野 公彦（たかの きみひこ）	
ねらい	これは短歌の好きな人、短歌を作ってみたい人のための授業です。毎週、短歌を作ってもらいます。じっさいに短歌を作ることによって短歌を作る楽しさ、及び短歌の奥の深さを知ってもらいたいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 短歌の話 第2回 作品2首提出、短歌の話 第3回 作品2首提出、作品批評 第4回 " " 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " " 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 作品批評、自選歌8首提出		
進め方	毎週、短歌を提出してもらいます。それをプリントして、みんなで批評し合います。作品の中から良いと思ったものを選び、感想を述べて下さい。必要に応じて教師も意見を言います。また、ときどき現代のすぐれた短歌を読んで鑑賞します。		
テキスト	なし	参考文献	高野公彦編『現代の短歌』（講談社学術文庫）
評価方法	作品（自選歌）：60% 出席：30% 授業への参加度：10%		

創作指導「短歌」Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
短歌に親しむ		高野 公彦（たかの きみひこ）	
ねらい	これは短歌の好きな人、短歌を作ってみたい人のための授業です。毎週、短歌を作ってもらいます。じっさいに短歌を作ることによって短歌を作る楽しさ、及び短歌の奥の深さを知ってもらいたいと思います。		
授業計画	【後期】 第1回 短歌の話 第2回 作品2首提出、短歌の話 第3回 作品2首提出、作品批評 第4回 " " 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " " 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 作品批評、自選歌8首提出		
進め方	毎週、短歌を提出してもらいます。それをプリントして、みんなで批評し合います。作品の中から良いと思ったものを選び、感想を述べて下さい。必要に応じて教師も意見を言います。また、ときどき現代のすぐれた短歌を読んで鑑賞します。		
テキスト	なし	参考文献	高野公彦編『現代の短歌』（講談社学術文庫）
評価方法	作品（自選歌）：60% 出席：30% 授業への参加度：10%		

調理文化		前期 2 単位	3年
人は何を食べてきたのか		高橋 恭子 (たかはし きょうこ)	
ねらい	異なった自然環境や社会環境のなかで暮らしてきた人は、それぞれの環境下で何を食糧として選択してきたのか、また、獲得した食糧に手を加えてどのような食べ物を作りあげ、特徴ある食生活を営んできたのかを考える。		
授業計画	【前期】 第1回 調理文化の概要 第2回 調理とおいしさ 第3回 米の調理性と米料理の地域性 第4回 小麦の調理性と小麦粉料理（パン様食品）の地域性 第5回 小麦粉料理（麺様食品）の地域性 第6回 いもの調理性といも料理の地域性 第7回 魚と肉の調理性 第8回 魚料理と肉料理の比較 第9回 乳加工品の地域性 第10回 豆加工品の地域性 第11回 発酵食品の地域性 第12回 調味料の地域性 第13回 香辛料の地域性 第14回 食具の地域性 第15回 まとめ・筆記試験		
進め方	日常あるいはビジネスとして食の場を整えるための（フードコーディネーター）基礎知識にもなるよう講義を進める。講義中心であるが、ビデオや写真などで理解を助ける。		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	石毛直道編『世界の食事文化』ドメス出版、吉川誠次編『食文化論』建帛社、橋本慶子・下村道子・島田淳子編『調理と文化』朝倉書店
評価方法	試験:60% 提出物:20% 出席:20%		

生活材料学		後期 2 単位	1・2・3年
繊維材料とプラスチック		山田 裕子 (やまだ ひろこ)	
ねらい	衣服や生活用具など私たちが日常生活の中で使用している“物”は、様々な素材で構成されているが、プラスチックや繊維を用いている物は多い。本講では、それら製品を使用する立場で、素材の特性や成り立ちを学ぶ。特性を知ってこそ、上手に生活の中で使いこなせるであろう。		
授業計画	【後期】 第1回 プラスチックとは何か。意味・特徴・歴史 第2回 プラスチックの種類。 第3回 熱硬化性プラスチックと熱可塑性プラスチック 第4回 汎用プラスチックとエンジニアリングプラスチック 第5回 身近なプラスチック 第6回 身近なプラスチック 第7回 プラスチック製品の作られ方 第8回 包装製品としてのプラスチック 第9回 使用済みプラスチックの廃棄とリサイクル 第10回 セラミックスとは 第11回 精密セラミックス製造は日本のお家芸 第12回 繊維の話・・・繊維とプラスチック 第13回 天然繊維と化学繊維、合成繊維 第14回 多様な特性を持つ最近の繊維 第15回 試験		
進め方	講義形式で進める。		
テキスト	テキストは指定しない。必要に応じプリントを配布する。	参考文献	林 雅子監修・酒井豊子ほか著『被服材料学』（実教出版社）、阿部幸子ほか著『衣生活論（同文書院）』、葛良忠彦・平和男著『新しい包装材料』（共立出版）
評価方法	定期試験:80% 出席点:20%		

基礎食品学		前期 2 単位	1・2・3年
食品材料と食品栄養学		谷本 信也（たにもと しんや）	
ねらい	食品を、化学的に、また、栄養、衛生、物理面でみて、料理素材として選べるよう、加工食品も選べるようになることを目的とする。植物性と動物性食材を個別に扱う。その組成を説明することで特性を理解し同時に食材の栄養学的知識を身につけ、流通加工の間での組成組織の物理化学変化を学ぶ中で、商品の見分、保存、栄養学的に見た加工調理法も		
授業計画	【前期】 第1回 食品の構成成分1 炭素水素酸素窒素等の原子と分子 水 第2回 食品の構成成分2 炭水化物 脂質 第3回 食品の構成成分3 脂質 第4回 食品の構成成分4 タンパク質 第5回 食品の構成成分5 繊維など 第6回 植物性食材 野菜1 第7回 植物性食材 野菜2 第8回 植物性食材 野菜3 第9回 植物性食材 果物 第10回 植物性食材 芋、豆、海藻、きのこなど 第11回 動物性食材 畜肉 第12回 動物性食材 乳 卵 第13回 動物性食材 海産物 第14回 食品流通と表示 法律と政策 第15回 試験		
進め方	講義中心の授業です。教科書を必要としますが、参考にするだけですし、授業と同じ内容の本で一冊にまとめたものはありません。関連資料はそのつど示しますが、積極的に授業に出席していないとおかれることになります。		
テキスト	アクセス生体機能成分（技報堂出版）	参考文献	図書館の食品学関係や調理関係の書棚と加工食品、農産物、畜産物、水産物の棚に詳しい本がある。参考図書リストも参考に。
評価方法	出席:30% 期末試験:70%		

応用食品学		後期 2 単位	1・2・3年
食品の嗜好成分・物性		黒田 圭一（くろだ けいいち）	
ねらい	食品に含まれる栄養素以外の成分である味、色、においなどの嗜好成分と食感について学び、食品の特性を理解することを目的とする。また安全で健康を維持できる食生活を営むための食の在り方を考えることも目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 食品の構成成分と機能 第2回 食品の味、呈味成分①（甘味と甘味料について） 第3回 食品の味、呈味成分②（酸味、塩味、苦味について） 第4回 食品の味、呈味成分③（うま味、辛味、渋味について） 第5回 食品の色、色素成分 第6回 食品の匂い、匂い成分 第7回 食品の物性①（デンプンとデンプン食品、パン） 第8回 食品の物性②（チーズ、ヨーグルトの乳製品） 第9回 食品の物性③（豆腐、かまぼこ、その他） 第10回 食品の物性④（脂質の乳化） 第11回 食品の毒性物質 第12回 食品の保存 第13回 加工食品 第14回 特別用途食品 第15回 まとめ		
進め方	講義が中心となる授業です。基礎となる分野も復習しながら進めていきます。		
テキスト	授業時に提示します。	参考文献	図書館の食品学関係の書棚と加工食品、農産物、畜産物、水産物の棚に本があります。食品学辞典。
評価方法	試験:70% 出席及び積極的な態度:20% レポート:10%		

実践栄養学		後期 2 単位	1・2・3年
栄養学を实践するために		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
ねらい	本講義の目的は若い女性が陥りやすい栄養に関係する病気を取り上げ、基礎栄養学（食事摂取基準）や栄養生理学の栄養知識を实践するための方法を理解することである。		
授業計画	【後期】 第1回 身体組成あれこれ 第2回 食事摂取基準 第3回 ダイエットの失敗 第4回 皮膚・毛髪と栄養 第5回 神経性食欲不振 第6回 便秘・下痢 第7回 脂肪肝・高脂血症 第8回 貧血・生理不順 第9回 低血圧・冷え 第10回 浮腫・むくみ 第11回 ダイエットと和食 第12回 ダイエット食とは 第13回 骨粗鬆症予防 第14回 食物アレルギー 第15回 食生活アンケート及び討論		
進め方	講義が中心となるが、ビデオで理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	図書館カウンターにある2010年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:85% 出席点:15%		

演劇論		後期 2 単位	1・2・3年
演劇の享受と解釈		曾根 幸子 (そね さちこ)	
ねらい	演劇とはどのような世界を構築し、わたしたちに何をもたらしてくれるのか。そして現代に生きるわたしたちにとって過去の偉大な作品がどのようによみがえり、それらがいかに意味あるものとして味わえるかを考える。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス～演劇とはなにか 第2回 ギリシャ悲劇～オイディプス王 第3回 ギリシャ悲劇～女王メディア、トロイアの女 第4回 シェークスピア～ハムレット（1） 第5回 シェークスピア～ハムレット（2） 第6回 シェークスピア～悲劇と喜劇 第7回 フランス古典劇～アンドロマック 第8回 近代演劇～人形の家、桜の園 第9回 プレヒト～三文オペラ 第10回 第二次大戦後の演劇～欲望という名の電車 第11回 不条理演劇～ゴドーを待ちながら 第12回 日本の伝統演劇～能、狂言 第13回 日本の伝統演劇～文楽、歌舞伎 第14回 日本のアンガラ演劇 第15回 まとめと発表		
進め方	講義が中心となるが、受講者の意見や感想を求めることもある。最初の授業で履修者の意見を聞き、授業内容の修正をする。毎回、参考となる映像資料を提示する。		
テキスト	教科書は用いず、プリント資料を配布する。	参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	1) 演劇鑑賞レポート:30% 2) 戯曲読解レポート:40% 出席状況、授業態度:30%		

音楽論		後期 2 単位	1・2・3年
音楽美学入門		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	音楽を思想の結晶の現われとみることによって、芸術としての音楽に内在する美を探る音楽美学を論ずる。具体的にはバッハの時代の音楽論から現代の音楽美学までの展開を理解することを目指す。		
授業計画	【後期】 第1回 序論、音楽美学と音楽史 第2回 ミュースの女神と芸術 第3回 笛と琴、ゲオルギア・アデスの音楽論 第4回 ビタゴラスの音楽論、数と音楽ーハルモニア 第5回 記譜法の歴史 第6回 楽譜と音響、音楽の在り方の問題 第7回 教会音楽と世俗音楽、グレゴリア聖歌 第8回 言葉と音楽、模倣から表出へ 第9回 無限の憧憬、器楽の優位ーソナタ 第10回 自律的音楽美学、ハンスリックの『音楽美学』 第11回 音楽の存在ー音と価値 第12回 音楽的時間、ジゼル・ブルレの音楽美学 第13回 演奏と音楽解釈、演奏論 第14回 ジャンケレヴィッチのドビュシー解釈 第15回 音楽美学の将来		
進め方	今年、西洋に於ける音楽の現象と音楽理論の歴史を論じた後に、音楽美学入門として音楽の美について、自律的音楽美学を論じたハンスリックとその後の展開を論じる。授業は講義形式であるが、必要に応じて音楽作品を聴く。		
テキスト	今道友信編『講座美学』4 芸術の諸相(東京大学出版会) 絶版の場合はプリントを使う。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	試験:55% 出席及び受講態度:35% レポート:10%		

映像論		後期 2 単位	1・2・3年
映像の歴史と映像表現の批評		濱崎 好治 (はまさき こうじ)	
ねらい	幅広い映像を見ることによって、映像の記録性、表現力について批評する方法を身につける。		
授業計画	【後期】 第1回 写真と動く映像の誕生 第2回 20世紀初頭のハリウッド映画 第3回 映画の記録性と表現力 第4回 記録映画と物語映画 第5回 映画の文法(カメラワークとモンタージュ) 第6回 映画の批評(リアリズム) 第7回 映画の批評(作家主義) 第8回 テレビ的表現とは何か 第9回 テレビの批評 第10回 日本のコマーシャル(‘60年代’ 70年代) 第11回 世界のコマーシャル(‘80年代’ 90年代) 第12回 マンガ・アニメの表現力 第13回 アートとしての映像表現 第14回 コンピュータグラフィックの表現 第15回 デジタル映像の可能性		
進め方	本講義は毎回映像を見ながら解説する。		
テキスト	プリントを配布。	参考文献	授業中に紹介。
評価方法	出席:20% レポート:80%		